

令和6(2024)年度 社会構想研究科 開設科目一覧

| 科目区分 | 科目コード | 科目名 | 担当教員 | 講義 演習 | 単位数 | 標準履 修年次 | 対応す るDP | 学期 | 曜日 | 備考 |
|-------------------------|-----------|-----------------|--------|----------|-----|------------|------------|-------|------|----------|
| 基礎科目 | SDPA1101L | 社会構想概論 | 吉國 浩二 | 講義 | 2 | 1 | ②③ | 前期 | 土A午前 | 必修 |
| | SDPA1102L | 社会学基礎理論 | 富井 久義 | 講義 | 2 | 1 | ① | 前期 | 水B | CD・PE共通 |
| | SDPA1103L | 経営学基礎理論 | 中川 哲 | 講義 | 2 | 1 | ① | 前期 | 木A | CD共通 |
| | SDPA1104L | 現代社会論 | 大谷 晃 | 講義 | 2 | 1 | ①② | 後期 | 木A | CD・PE共通 |
| | SDPA1105L | 現代政治入門 | 下平 拓哉 | 講義 | 2 | 1 | ① | 前期 | 金A | |
| | SDPA1106L | 総合政策概論 | 西田 淳一 | 講義 | 2 | 1 | ① | 前期 | 土B午前 | |
| | SDPA1107L | 実践研究法 I | オムニバス | 講義 | 2 | 1 | ② | 前期 | 火B | CD・PE共通 |
| | SDPA1108S | 実践研究法 II | 富井 久義 | 演習 | 2 | 1 | ② | 後期 | 火A | CD・PE共通 |
| 必修科目「社会構想概論」(2単位)を修得する。 | | | | | | | | | | |
| 科目区分 | 科目番号 | 科目名 | 担当教員 | 講義 演習 | 単位数 | 標準履 修年次 | 対応す るDP | 学期 | 曜日 | 備考 |
| 専門基礎科目 | SDPB1201L | 政策過程論 | 下平 拓哉 | 講義 | 2 | 1 | ① | 後期 | 金A | |
| | SDPB1202L | 公共哲学 | 下平 拓哉 | 講義 | 2 | 1 | ①③ | 前期 | 木B | |
| | SDPB1203L | 産業社会学 | 富井 久義 | 講義 | 2 | 1 | ① | 前期 | 火A | PE共通 |
| | SDPB1204L | 国際社会学 | 下平 拓哉 | 講義 | 2 | 1 | ① | 後期 | 火B | |
| | SDPB1205L | 都市社会学 | 池邊 このみ | 講義 | 2 | 1 | ① | 前期 | 月A | |
| | SDPB1206L | 地域社会論 | 中村 玲子 | 講義 | 2 | 1 | ① | 後期 | 土A午後 | |
| | SDPB2207L | 福祉社会学 | 富井 久義 | 講義 | 2 | 2 | ①③ | 後期 | 水B | |
| 専門基礎科目から4単位以上を修得する。 | | | | | | | | | | |
| 科目区分 | 科目番号 | 科目名 | 担当教員 | 講義 演習 | 単位数 | 標準履 修年次 | 対応す るDP | 学期 | 曜日 | 備考 |
| 専門科目 | SDPC1301L | グランドデザイン構想論 | 吉國 浩二 | 講義 | 2 | 1 | ③ | 後期 | 木B | |
| | SDPC2302L | 社会システム論 | 徳宮 俊貴 | 講義 | 2 | 2 | ① | 後期 | 火B | |
| | SDPC2303L | パブリック・アフェアーズ | 北島 純 | 講義 | 2 | 2 | ② | 後期 | 水A | CD共通 |
| | SDPC2304L | デジタル社会論 | 橋本 純次 | 講義 | 2 | 2 | ②③ | 前期 | 金A | CD共通 |
| | SDPC2305L | 国際関係論 | 北島 純 | 講義 | 2 | 2 | ②③ | 前期 | 水B | |
| | SDPC2306L | 異文化間コミュニケーション | 徳宮 俊貴 | 講義 | 2 | 2 | ③ | 前期 | 土B午後 | |
| | SDPC2307L | 国際安全保障論 | 下平 拓哉 | 講義 | 2 | 2 | ②③ | 後期 | 土B午前 | |
| | SDPC1308S | 社会起業構想論 | 池邊 このみ | 演習 | 2 | 1 | ③ | 後期 | 水B | |
| | SDPC2309L | 社会政策論 | 大谷 晃 | 講義 | 2 | 2 | ② | 前期 | 木A | |
| | SDPC2310L | ソーシャル・コミュニケーション | 坂本 文武 | 講義 | 2 | 2 | ②③ | 前期 | 火A | CD共通 |
| | SDPC2311L | 地域イノベーション論 | 池邊 このみ | 講義 | 2 | 2 | ③ | 後期 | 月A | |
| 専門科目から8単位以上を修得する。 | | | | | | | | | | |
| 科目区分 | 科目番号 | 科目名 | 担当教員 | 講義 演習 | 単位数 | 標準履 修年次 | 対応す るDP | 学期 | 曜日 | 備考 |
| 探社会 究社会 科構 想 | SDPD1411S | グランドデザイン構想実践 | 下平 拓哉 | 演習 | 6 | 1 | ①②③ | 通年+集中 | 土A午後 | |
| | SDPD2421T | グランドデザイン構想研究 | 北島 純 | 演習 | 6 | 2 | ①②③ | 通年+集中 | — | 2025年度開講 |
| | SDPD1412S | 社会起業構想実践 | 河村 昌美 | 演習 | 6 | 1 | ①②③ | 通年+集中 | 土B午後 | |
| | SDPD2422T | 社会起業構想研究 | 池邊 このみ | 演習 | 6 | 2 | ①②③ | 通年+集中 | — | 2025年度開講 |
| 社会構想探究科目から12単位を修得する。 | | | | | | | | | | |

令和 6(2024)年度 社会構想研究科 時間割

| 前期 A | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40 | | | | | | SDPA1101L 社会構想概論 吉園 浩二 |
| | | | | | | |
| 3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50 | | | | | | SDPD1411S グランドデザイン構想実践 下平 拓哉 |
| | | | | | | |
| 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40 | SDPB1205L 都市社会学 池邊 このみ | SDPC2310L ソーシャル・コミュニケーション 坂本 文武 | | SDPA1103L 経営学基礎理論 中川 哲 | SDPA1105L 現代政治入門 下平 拓哉 | |
| | | SDPB1203L 産業社会学 富井 久義 | | SDPC2309L 社会政策論 大谷 晃 | SDPC2304L デジタル社会論 橋本 純次 | |
| 前期 B | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40 | | | | | | SDPA1106L 総合政策概論 西田 淳一 |
| | | | | | | |
| 3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50 | | | | | | SDPC2306L 異文化間コミュニケーション 徳宮 俊貴 |
| | | | | | | SDPD1412S 社会起業構想実践 河村 昌美 |
| 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40 | | SDPA1107L 実践研究法 I オムニバス | SDPA1102L 社会学基礎理論 富井 久義 | SDPB1202L 公共哲学 下平 拓哉 | | |
| | | | SDPC2305L 国際関係論 北島 純 | | | |
| 後期 A | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50 | | | | | | SDPD1411S グランドデザイン構想実践 下平 拓哉 |
| | | | | | | SDPB1206L 地域社会論 中村 玲子 |
| 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40 | SDPC2311L 地域イノベーション論 池邊 このみ | SDPA1108S 実践研究法 II 富井 久義 | SDPC2303L パブリック・アフェアーズ 北島 純 | SDPA1104L 現代社会論 大谷 晃 | SDPB1201L 政策過程論 下平 拓哉 | |
| | | | | | | |
| 後期 B | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1・2限 10:30 - 12:00 12:10 - 13:40 | | | | | | SDPC2307L 国際安全保障論 下平 拓哉 |
| | | | | | | |
| 3・4限 14:40 - 16:10 16:20 - 17:50 | | | | | | SDPD1412S 社会起業構想実践 河村 昌美 |
| | | | | | | |
| 5・6限 18:30 - 20:00 20:10 - 21:40 | | SDPB1204L 国際社会学 下平 拓哉 | SDPB2207L 福祉社会学 富井 久義 | SDPC1301S グランドデザイン構想論 吉園 浩二 | | |
| | | SDPC2302L 社会システム論 徳宮 俊貴 | SDPC1308S 社会起業構想論 池邊 このみ | | | |

| | | | | | |
|-------|--------|------|---------|-------|-------------|
| 授業名称 | 社会構想概論 | | | 科目コード | SDPA1101L |
| 担当教員 | 吉國 浩二 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 土 A (1・2 限) |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 必修 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が社会構想研究科における学修の全体像を理解するとともに、社会構想をめぐる論点を体系的かつ網羅的に説明できるようにすることにある。本授業はなぜいま「グランドデザイン構想」と「社会起業構想」という本研究科の二つの趣旨が国内外の社会で重要視されているか解説するとともに、履修者が自らの関心に応じた学修をすすめるための基本基盤を提供するものであるものであるので、必修科目とする。授業は講義とそれに基づく討議で進行する。

到達目標

- ① 履修者が社会構想研究科で学ぶ具体的な領域について説明できるようになる。
- ② 履修者が社会構想分野における学習方法を説明できるようになる。
- ③ 履修者が社会構想分野における先進事例の特徴を説明できるようになる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|--|---|
| 第 1 週 (第 1 講／吉國浩二) オリエンテーション | 事前 シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討(1h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) 本授業を自身の研究にどう役立てるかの考察 (2h) |
| 第 2 週 (第 2 講・第 3 講／富井久義)「社会構想の課題」をめぐる対話 | 事前 授業資料の確認(2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) ディスカッションの復習(5h) |
| 第 3 週 (第 4 講・第 5 講／池邊このみ) 社会起業概論 | 事前 授業資料の確認(2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) 授業内容の復習 (2h) |
| 第 4 週 (第 6 講・第 7 講／北島純) グランドデザイン概論 | 事前 授業資料の確認(2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) 授業内容の復習 (2h) |
| 第 5 週 (第 8 講・第 9 講／ゲスト講師・吉國浩二) ゲストの講演と討議 杉本和之氏 (元財務相事務次官、公正取引委員会委員長) 「政府の長期計画策定にあたっての現状と課題」 | 事前 授業資料の確認 (1h) ゲスト講師に関する事前調査(2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) ディスカッションの復習(3h) |
| 第 6 週 (第 10 講・第 11 講／ゲスト講師・吉國浩二) ゲストの講演と討議 牧慎太郎 (兵庫県立大学特任教授、自治大学客員教授) | 事前 授業資料の確認(1h) ゲスト講師に関する事前調査(2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) ディスカッションの復習(3h) |
| 第 7 週 (第 12 講・第 13 講／ゲスト講師・吉國浩二) ゲストの講演と討議 水谷伸吉氏 (一般社団法人 more trees 事務局長) | 事前 授業資料の確認(1h) ゲスト講師に関する事前調査(2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) ディスカッションの復習(3h) |
| 第 8 週 (第 14 講・第 15 講／吉國浩二) 授業のまとめ 履修生の発表と討議 | 事前 授業資料の確認(1h) 発表の準備 (9.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) ディスカッションの復習(5h) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行し、後半はゲスト講師

を招聘し最先端の実践を学ぶ。最終回にはこの授業を受けて今後どのようなテーマで研究をおこなっていくのかを各人から発表してもらい討論を行う。

教科書・参考書

教科書は指定しない

参考書として以下を挙げる。このほか授業の中で適宜紹介する。

小熊英二『社会を変えるには』講談社新書（2012）

重松博之監修・野中郁次郎他編『ワイズガバメント——日本の政治過程と行財政システム』中央経済社（2021）

評価方法

各回の授業への貢献（発言・質問） 20%

コメントペーパーの内容 30%

第8週の課題発表の内容 50%

その他の重要事項

教員と履修者の面談については、Teams を中心に対応するため定期的なオフィスアワーは設けないが、希望がある場合は随時オフィスアワーを設定することも検討したい。具体的には初回の授業で説明する。

ハイフレックス方式での開講だが、教員やゲスト講師の都合により一部オンラインのみとなる可能性がある。またゲスト講師の都合により後半の授業計画に変更が生じる可能性がある。その場合は直ちに Teams を通じて周知する。

| | DP ① | DP ② | DP ③ |
|--------------------|------|------|------|
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | — | ○ | ○ |

| | | | | | |
|-------|---------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 社会学基礎理論 | | | 科目コード | SDPA1102L |
| 担当教員 | 富井久義 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2単位 |
| 配当年次 | 1・2年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 水B |
| 年間開講数 | 1回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、社会学の基本的な理論や視座、発想法を理解し、社会的想像力を身につけることにある。社会課題や経営課題に取り組み、実行可能な解決策を見いだしていくためには、その課題の社会的な位置づけを見定める俯瞰的な視点や、課題を多角的にとらえる複眼的思考が求められる。「より大局的な歴史的場面を、個人ひとりひとりの内的な精神生活や外的な職業経歴によってそれがどのような意味をもっているのか」(C. W. Mills 1959=2017: 19) を考える社会的想像力を身につけることは、そうした能力を身につける一助となるだろう。

本授業では、主要な社会学理論をその射程の別に取り上げるなかで、社会的想像力の多様な発揮のしかたについて検討し、履修者の関心や課題に近い社会学理論を習得することをめざす。

到達目標

- ① 社会的想像力について理解し、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連する事例に関連づけて説明することができる。
- ② 社会学の基本的な理論をもちいて、みずから関心をもつ世の中のさまざまな事象を解釈・説明することができる。
- ③ みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連することがらについて、社会学の理論をもちいて説明することができる。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|------|---|--------|--|
| 第1週 | (第1講) 社会学とはなにか (イントロダクション) ——社会学、社会的想像力、近代社会 | 事前 | シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h) |
| 第2週 | (第2・3講) 初期の理論家に学ぶ社会的視座 ——ウェーバー、デュルケム、マルクス | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第3週 | (第4・5講) ミクロ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——象徴的相互作用論、相互行為、自己 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第4週 | (第6・7講) メゾ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——官僚制、中間集団、社会関係資本、制度と文化 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第5週 | (第8・9講) マクロ・レベルに照準する社会学の基礎理論 ——機能主義、顕在的機能と潜在的機能、中範囲の理論 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第6週 | (第10・11講) 社会学は社会変動をいかにとらえているのか ——葛藤理論、テクノロジーと制度、変化への意志 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第7週 | (第12・13講) 社会学は時間と空間をいかにとらえているのか ——歴史、記憶、都市 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |

| | | | | |
|--|--|------|--|--|
| 第 8 週 | (第 14・15 講) 課題発表と討論 —— 関心のある社会課題／経営課題についての発表と討論 | 事前 | フィードバックコメントの確認、課題発表準備 (14h) | |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習、発表者へのフィードバックシートの記入 (5h) | |
| 授業の進め方と方法 | | | | |
| <p>本授業は、第 2 週目以降、2 講連続で実施する。</p> <p>第 2 週から第 7 週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。</p> <p>第 8 週では、関心のある社会課題／経営課題について社会学の概念をもちいた考察をする発表を各履修者に求め、相互に討論するかたちで進行する。</p> | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| <p>【教科書】 指定しない</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アンソニー・ギデンズ, 2006=2009, 『社会学 第五版』 而立書房. ● 長谷川公一ほか, 2019, 『社会学 新版』 有斐閣. ● 田中正人編, 2019, 『社会学用語図鑑』 プレジデント社. | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 第 8 週の課題発表の内容 40% | | | | |
| その他の重要事項 | | | | |
| 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第 1 週の授業で説明する。 | | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ | |
| | ○ | — | — | |

| | | | | | |
|-------|---------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 経営学基礎理論 | | | 科目コード | SDPA1103L |
| 担当教員 | 中川 哲 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1・2 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 木 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、これまで経営学を専門的に学んでこなかった受講者が経営学の基本原則と理論について理解し、現代のビジネス環境で活用するための知識とスキルを身に付けることにある。

授業では、経営戦略、組織とリーダーシップ、マーケティング、人的資源管理、財務・会計を含む経営の流れ（Rhythm of Business）や企業文化など、経営の各分野にわたる重要なトピックを網羅する。受講者は、事例を中心としたディスカッションを通じて、理論と実務の結びつきを学ぶ。また、経営倫理と社会的責任についても学び、倫理的かつ社会的に責任ある経営者としての基盤を築くことを目指す。将来経営者やビジネスリーダーを目指す受講者にとって、そのキャリアを形成する上で不可欠な基礎知識を提供する。

到達目標

- ① 履修者が経営学の基本原則と理論を理解し、それらを実際のビジネスシナリオに応用する能力を身に付ける。
- ② 履修者が戦略的思考、効果的な問題解決能力、そして批判的分析スキルを習得し、多様なビジネス環境での意思決定に役立てる。
- ③ 履修者が経営倫理と社会的責任に関する深い理解を持ち、倫理的かつ責任あるリーダーシップを発揮する基盤を築く。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|---|---------------------------------------|
| 第 1 週 (第 1 講) オリエンテーション (本授業の目的・到達点・授業の進め方、経営学の必要性と全体像把握) | 事前 シラバスの精読 (1h) 到達目標についての自己設定 (2h) |
| | 事後 リフレクション (2h) |
| 第 2 週 (第 2・3 講) 経営戦略：企業経営の根幹となる経営戦略について、企業理念（ミッション、ビジョン、バリュー）、戦略策定のためのフレームワーク（SWOT、3C 分析など）の理解 | 事前 本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h) |
| | 事後 リフレクション (2h) |
| 第 3 週 (第 4・5 講) マーケティング：企業の成長を支えるマーケティングについて、マーケットリサーチ、4P 分析や 5Force 分析、STP 分析を通じたマーケティング戦略策定についての理解 | 事前 本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h) |
| | 事後 リフレクション (2h) |
| 第 4 週 (第 6・7 講) 組織とリーダーシップ、システムとしてのインセンティブとモチベーションマネジメント：企業戦略に沿った組織の形態、目標に向けてメンバーを導くリーダーの取り組みについての理解、また、人事システム・組織文化といった人を効果的に動かす仕組みの理解 | 事前 本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h) |
| | 事後 リフレクション (2h) |
| 第 5 週 (第 8・9 講) 経営管理：取締役会や決算報告、株主総会の役割と各種の経営管理、企業資源計画（ERP）についての理解 | 事前 本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h) |
| | 事後 リフレクション (2h) |
| 第 6 週 (第 10・11 講) 企業文化と理念：企業文化と理念の定義、構築、そして、ビジネスへの影響についての理解 | 事前 本週の内容に関する学習 (2h) 発表準備 (4h) |
| | 事後 リフレクション (2h) |

| | | | | |
|--|---|------|-----------------------------|------|
| 第7週 | (第12・13講) 企業倫理とコンプライアンス、企業の社会的責任(CSR) : 企業倫理とコンプライアンスの定義や重要性、問題発生時のビジネスへの影響についての理解、また、企業の社会的責任(CSR) についての理解 | 事前 | 本週の内容に関する学習(2h) 発表準備(4h) | |
| | | 事後 | リフレクション(2h) | |
| 第8週 | (第14・15講) 課題の発表と全体ディスカッション・講評～授業総括 | 事前 | 発表準備(5h) | |
| | | 事後 | リフレクション(2h) | |
| 授業の進め方と方法 | | | | |
| <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は授業範囲の内容を各自が事前学習することが求められる。また、第2～7週の授業では、受講者が持ち回りで授業範囲について発表を行い、全参加者でディスカッションを行う。また、各自、授業についてのリフレクションを行い、授業終了後に提出する。</p> <p>第8週の授業では、第7週までに学んだ内容を自身が所属する組織や自身の担当業務に重ね合わせて課題設定と考察を行い、まとめ発表を行うものとする。</p> <p>なお、各回の講義内容については、受講者の既有知識や社会の情勢変化に対応して変更することがある。</p> | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| <p>教科書は特に指定しない。</p> <p>参考書：伊丹敬之、加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門 第4版』, 日本経済新聞社。 幸田達郎(2023)『MBA テキスト経営学入門』, 勁草書房。</p> | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 第2週～7週の授業での発表資料準備とその資料を用いた発表(25%) ● 第2週～7週の授業でのディスカッションへ参加や発言内容などの貢献度(25%) ● 第2週～7週の授業終了後のリフレクション(25%) ● 第8週の授業での発表内容(25%) | | | | |
| その他の重要事項 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 毎回の授業で、次回の授業範囲と発表担当者を伝達するので、各自予習し、発表担当者は発表準備をすること。 ● 本授業の各回講義を欠席する場合は、Teams等を通じて事前に連絡すること。 ● 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。 | | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | | ○ | - | - |

| | | | | | |
|-------|-------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 現代社会論 | | | 科目コード | SDPA1104L |
| 当教員 | 大谷 晃 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 木 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における教育や人材育成、コミュニケーションの位置づけを明らかにするために、社会学の主要な概念と方法をもちいて現代社会の分析をおこなうことである。

現代社会はどのような社会なのか。どのようにすれば現代社会を分析的にとらえることができるのだろうか。現代社会について理解を深めることは、私たちが生きる社会についての複眼的な視座を身につけ、解像度を高めていくことにつながる。そしてそれは、履修者各自が関心を有する社会課題や経営課題についての社会的な位置づけを明らかにする一助となる。

本授業では、グローバル化・階層と資源の分配・社会関係の変容をめぐる議論等を中心に、現代社会を論じる社会学の議論を検討することで、履修者各自が現代社会を論じる視座を身につけることをめざす。

到達目標

- ① 履修者が、現代社会を分析するための主要な概念や発想法を理解し、説明することができる。
- ② 履修者が、現代社会を分析する議論について、みずから関心をもつ社会課題や経営課題に関連づけて説明することができる。
- ③ 履修者が、現代社会を分析する議論について、分析視角、知見、課題を正しく読解することができる。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|-------|--|--------|--|
| 第 1 週 | (第 1 講) 現代社会をとらえるための視座と方法① ——イントロダクション | 事前 | シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、予習・復習スケジュールの割当検討 (1h) |
| 第 2 週 | (第 2・3 講) 現代社会をとらえるための視座と方法② ——現代社会をめぐる理論と社会学の調査方法 | 事前 | フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h) |
| 第 3 週 | (第 4・5 講) 地域・都市社会とコミュニティの変容 ——地域開発、住民組織、ネットワーク、まちづくり、バーチャル・コミュニティ | 事前 | フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h) |
| 第 4 週 | (第 6・7 講) 少子高齢化の進展と福祉国家 ——家族の戦後体制、少子化対策、資源の分配、ボランティア・NPO | 事前 | フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h) |
| 第 5 週 | (第 8・9 講) グローバル化と移動 ——マクドナルド化・空間の再編、観光のまなざし、世界都市仮説 | 事前 | フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の選択 (2h) |
| 第 6 週 | (第 10・11 講) 知識・情報とメディア、階層 ——文化資本、知識社会、格差社会 | 事前 | フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表文献の精読 (6h) |
| 第 7 週 | (第 12・13 講) 政治不信と民主主義 ——政治意識、政治参加、新しい社会運動、分極化、アイデンティティ、熟議 | 事前 | フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h) |

| | | | | |
|---|-----------------------------|------|--|------|
| 第8週 | (第14・15講) 現代社会論を読む——課題発表と討論 | 事前 | フィードバックコメントの確認 (0.5h)、課題発表準備 (12h) | |
| | | 事後 | コメントペーパー (発表へのリアクション含む) 記入 (3h)、授業内容の復習 (2h) | |
| 授業の進め方と方法 | | | | |
| <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員による社会学理論や方法の講義に加え、履修者によるディスカッションを取り入れる形で進める。本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。</p> <p>第2週から第7週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義 (話題提供)、ディスカッション (演習課題) で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにはフィードバックを行い、次週の授業冒頭のふりかえりの際にいくつかを紹介する。</p> <p>第8週については、各履修者の関心に近い現代社会についての論文を取り上げ、その分析視角・知見・課題等を発表し、討論をおこなうかたちで進行する。</p> | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| <p>【教科書】 指定しない</p> <p>【参考書】 以下の文献を参照。また、それ以外にも初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。</p> <p>本田由紀編 (2015) 『現代社会論』 有斐閣。</p> <p>長谷川公一ほか (2019) 『社会学 新版』 有斐閣。</p> <p>アンソニー・ギデنز、松尾精文・成富正信訳 (2006=2009) 『社会学 第五版』 而立書房。</p> <p>アルベルト・メルッチ、新原道信・長谷川啓介・鈴木鉄忠訳 (1996=2008) 『プレイング・セルフ——惑星社会における人間と意味』 ハーベスト社。</p> | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| コメントペーパーの内容 | | 30% | | |
| ディスカッションへの貢献 | | | 30% | |
| 第8週の課題発表の内容 | | 40% | | |
| その他の重要事項 | | | | |
| <p>担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。</p> <p>*担当教員の連絡先：大谷晃 (akira.otani@sentankyo.ac.jp)</p> | | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | | ○ | ○ | - |

| | | | | | |
|-------|--------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 現代政治入門 | | | 科目コード | SDPA1105L |
| 担当教員 | 下平拓哉 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 金 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が現代の政治と政治分析に関する基礎的知識を身につけ、現在の国内社会やグローバル社会が直面する政治過程上の問題について考察できるようになることにある。本授業では、政治体制や政治思想、権力論、生政治といったテーマについて理論と実践の両面から学ぶことで、履修者は理想とする社会のグランドデザインや社会起業の実装について検討するための前提となる考え方を得ることができる。授業は講義とそれに基づく討論により進行する。

到達目標

- ① 履修者が現代の政治と政治分析に関する基礎的知識を理解することができる。
- ② 履修者が政治体制や権力論といった具体的な政治テーマについて考究し、現実の政治現象を解明するための視座を身につけることができる。
- ③ 履修者が日本を含めた現在の世界がどのような問題を抱え、どのように立ち向かっていくのかを多角的に考究し、解決のための提言ができる。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|-------|--|--------|---------------------------------------|
| 第 1 週 | (第 1 講) 政治学とはなにか イントロダクション、職業としての政治、現代政治を捉えるための視座と方法等について概観する。 | 事前 | シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) |
| 第 2 週 | (第 2 講/第 3 講) 政治学の発達と基礎概念 政治とは何か、国家、権力、生政治、公共性等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 第 3 週 | (第 4 講/第 5 講) 政治体制と政治変動 自由民主主義、ファシズム、福祉国家、比較政治、政治変動等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 第 4 週 | (第 6 講/第 7 講) 政治制度と政策 立憲主義、官僚制、政策形成過程、新制度論等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h) |
| 第 5 週 | (第 8 講/第 9 講) 政治思想の系譜 アリストテレス、マキャベリ、ロック、ルソー等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h) |
| 第 6 週 | (第 10 講/第 11 講) 現代政治の諸問題 啓蒙、理性、フェミニズム、多文化主義、エコロジー、戦争等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) |
| 第 7 週 | (第 12 講/第 13 講) 政治の省察 宗教、統治、人間、文明等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |
| 第 8 週 | (第 14 講/第 15 講) 総括討論 「現代政治」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。 | 事前 | 総括討論に向けた資料作成 (10h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。
※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。

教科書・参考書

教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。
以下、参考文献を列記する。

Andrew Heywood (2019) *Politics* 5th ed., Red Globe Press.

バーナード・クリック (2003) 『現代政治学入門』、講談社。

マックス・ヴェーバー (1980) 『職業としての政治』、岩波書店。

岡崎晴輝・木村俊道編 (2008) 『はじめて学ぶ政治学』、ミネルヴァ書房。

加茂利男他 (2012) 『現代政治学』、有斐閣。

川出良枝・谷口将紀編 (2022) 『政治学 第2版』、東京大学出版会。

評価方法

以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。

60点を超えるものに単位を付与する。

1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)
2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡（相談内容については問わない）

授業実施方法：ハイフレックス

| | | | |
|--------------------|------|------|------|
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | ○ | - | - |

| | | | | | |
|-------|--------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 総合政策概論 | | | 科目コード | SDPA1106L |
| 担当教員 | 西田淳一 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2単位 |
| 配当年次 | 1・2年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 水A |
| 年間開講数 | 1回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が主に地方自治の制度面（団体自治）に関わる分野を対象として、社会科学的な視点（国・社会の全体最適）をもって現状を分析、課題を抽出し適切に対処出来るようにベースとなる総合政策に関する知識や改善改革への考え方をバランスよく身につけることにある。

本授業は、総合商社から公募で地方公務員に転身した講師の民間・地方行政の実務経験や公共政策大学院での研究などを踏まえて、「地方の自立が社会（日本）を変える」という理念に立ち、これまで国が最適な国づくりの重要なテーマとして取り組んだ「地方分権」へ動きと成果や課題、現状の地方自治制度と中央政府との課題などについて、関連する学術書や過去に実務面から有力政治家が発信した改造計画や提言などを参考にし、今後の地方の自立に向けた具体的且つ総合的な取組み方、例えば、制度面からアプローチする「地方庁」の創設（仮説）の有用性などを履修者とともに考えていく。

到達目標

- ① 履修者が我が国の「地方分権」の動きを概括的に理解しベースとなる知識と思考力を養う。
- ② 履修者が授業での質疑や討議を通して、地方分権への課題などを的確に抽出する力を養う。
- ③ ①②を通して、今後の「地方の自立」のグランドデザインを総合的に提案、論じる能力を身につける。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|------|---|--------|--|
| 第1週 | (第1講) ガイダンス ・講師略歴（商社マンから行政マンへの転身の動機など）やこの授業を担当する目的の紹介。 ・シラバスの説明と質問&ディスカッション（討議）。 | 事前 | シラバスの精読（1h） 質問事項の検討（1h） |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出（1.5h） シラバスの確認&討議内容の復習（2h） |
| 第2週 | (第2講) 大阪市の取組み 大阪府で展開された「都構想」（特別区）の内容把握と課題の分析、他の制度との比較などをおこなう。 (第3講) 「関西広域連合」とは 「関西広域連合」の誕生経緯の把握と意義や課題の分析、並びに地方分権の中での位置づけなどを検討する。 | 事前 | 授業資料の読み込み&確認（2h） 討議の準備（1.5h） |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出（1.5h） 資料&討議内容の復習（2.5h） |
| 第3週 | (第4講) 地方分権改革の動き 地方分権改革について、政府のこれまでの動きや経緯、概要を内閣府の資料などに基づいて確認、分析する。 (第5講) 政治家からの提言 地方分権に対する有力政治家の提言やその成果や課題を出版された書籍などをもとに検討を加える。 | 事前 | 授業資料の読み込み&確認（2h） 討議の準備（1.5h） |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出（1.5h） 資料&討議内容の復習（2.5h） |
| 第4週 | (第6講) 中央集権体制と地方自治制度 霞ヶ関中央官僚による中央集権体制と地方自治制度の関係や現状、課題について、地方分権改革の変遷の中で権能・機能の面から分析する。 (第7講) 地方自治における諸外国との比較と市民参加 諸外国の地方自治制度（中央政府との関係）や市民参加の状 | 事前 | 授業資料の読み込み&確認（2h） 討議の準備（1.5h） |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出（1.5h） 資料&討議内容の復習（2.5h） |

| | | | |
|--|---|----|--|
| | 況につき、日本との比較においてメリットやデメリットを考える。 | | |
| 第5週 | <p>(第8講) 指定都市市長会の提言 「特別自治市」構想について、全国指定都市市長会の政府への動きから、その意義や必要性、課題を分析する。</p> <p>(第9講) 「大都市制度」の現状と課題 「大都市制度」と地方自治制度の関連を整理し、制度の課題や検討すべき視点を明確にして今後の「大都市制度のあり方」を考える。</p> | 事前 | 授業資料の読み込み&確認 (2h) 討議の準備 (1.5h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1.5h) 資料&討議内容の復習 (2.5h) |
| 第6週 | <p>(第10講) 地方議会と議員 「地方議会」の現状と課題や地方議員のあり方などを講師の大阪府市での議会経験を通して分析し検討を加える。</p> <p>(第11講) 国と地方で異なる統治制度 国政の議員内閣制と地方自治の二元代表制による統治制度の相違を整理し、地方議会や行政の課題、政党政治とのあり方などを検討する。</p> | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) 討議の準備 (1.5h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1.5h) 資料&討議内容の復習 (2.5h) |
| 第7週 | <p>(第12講) (第13講) 「地方庁」構想と道州制について 地方分権をより確実に進める上での「地方庁」(仮称)の設置目的や必要性を検討する。また、2015年から国での検討が止まっている「道州制」の経緯や概要を整理し今後の議論のあり方を検討する。</p> | 事前 | 授業資料の読み込み&確認 (2h) 討議の準備 (1.5h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1.5h) 資料&討議内容の復習 (2.5h) |
| 第8週 | <p>(第14講) (第15講) 授業の振り返り&総括 授業全体を総括しながら押えるべき重要なポイントや課題を、部分最適+全体最適の視点から総合的に整理し、自由討議にて議論を深める。</p> | 事前 | 授業資料の読み込み&確認 (2h) 全体討議の準備 (1.5h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1.5h) 資料&討議内容の復習 (2h) 最終レポート課題 (3h) |
| 授業の進め方と方法 | | | |
| 上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進める。 | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| <p>教科書は指定しない。</p> <p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西尾勝 (2007年) 『地方分権改革』, 東京大学出版会 ・本田弘 (1995年) 『大都市制度論』, 北樹出版 ・金井利之 (2007年) 『自治制度』, 東京大学出版 ・宇賀克也 (2015年) 『地方自治法概説』, 有斐閣 ・山口二郎 (2007年) 『内閣制度』 東京大学出版 ・金子仁洋 (2007年) 『地方再興』, マネジメント社 ・待鳥聡史 (2020年) 『政治改革再考』, 新潮社 ・大前研一 (2016年) 『君は憲法第8章を読んだか』, 小学館、他 (適宜、授業で紹介) | | | |
| 評価方法 | | | |
| ① 授業での討議への参加とコメントペーパーの提出による評価 (40%)。 | | | |

② 最終レポート課題の提出による評価（60%）。

以上、①+②の総合評価により判定する。

その他の重要事項

- ・担当教員のオフィスアワーや面談の予約方法などは初回ガイダンスで説明する。
- ・本授業はハイレックス授業にて全講義を実施する。

| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
|--------------------|------|------|------|
| | ○ | - | - |

| | | | | | |
|-------|---------|------|-------|-------|-----------|
| 授業名称 | 実践研究法 I | | | 科目コード | SDPA1107L |
| 担当教員 | オムニバス | 実施方法 | オンライン | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 火 B |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が社会構想大学院大学の専門職学位課程において、修士論文相当の最終成果物を作成するにあたり必要となるアカデミック・スキルズを身につけることにある。社会人学生が大学院において効率的に実りある学びを得るためには、これまでに蓄積された学術知にアクセスし、それらを読み解き、自ら新たな知を生み出し、他者に伝達するための一連の能力を高い水準で有することが必要不可欠である。

本授業ではまず「研究」や「調査」とはいかなる営みか整理し、それらを支える思考法を学び、そのうえで文献調査の技法や、アカデミックコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につけていく。併せて、適切な倫理性を備えた研究計画を立案するための基礎的な考え方を習得する。

到達目標

- ① 履修者が「研究」や「調査」といった概念や、その前提となる思考法・倫理について説明できるようになる。
- ③ 履修者が書籍や論文といった学術的リソースを利活用できるようになる。
- ④ 履修者がアカデミックなコンテンツを読み・書き・伝える能力を身につける。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|-------|--|--------|--------------------------------------|
| 第 1 週 | (第 1 講／橋本純次) 研究とはなにか，調査とはなにか ——オリエンテーション | 事前 | シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (1h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h) |
| 第 2 週 | (第 2・3 講／橋本純次) 論理的思考とデザイン思考 ——高度専門職業人の基礎となる世界の捉え方 | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h) |
| 第 3 週 | (第 4・5 講／齋藤崇徳) 文献調査の技法 ——学術情報を体系的に検索する方法 | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h) |
| 第 4 週 | (第 6・7 講／齋藤崇徳) クリティカル・リーディングの基礎と 実践——文献レビューのための読書法 | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h) |
| 第 5 週 | (第 8・9 講／大谷晃) アカデミック・ライティングの基礎 | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h) |
| 第 6 週 | (第 10・11 講／全教員) アカデミック・ライティング演習 ——パラグラフ・ライティングの実践 | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (6h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (2h) |
| 第 7 週 | (第 12・13 講／橋本純次) アカデミック・プレゼンテーション の基礎と実践——研究内容を伝えるコミュニケーション | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (5h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 8 週 | (第 14・15 講／富井久義) 研究計画と研究倫理 | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) 課題への取り組み (2h) |

| | | | | |
|--|-----------------------------|------|---|--|
| | ——調査依頼状にあらわれるリサーチ・デザインと調査倫理 | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 授業内課題のブラッシュアップ (2h) | |
| 授業の進め方と方法 | | | | |
| 上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。併せて、アカデミックな方法論を履修者全体に内在化する観点から、いくつかのテーマでは課題へのフィードバックを全体で共有しながら授業を進める。 | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| 参考書として以下3点を挙げる。履修者の状況に応じていずれかを手元に置くことが望ましい。 <ul style="list-style-type: none"> ● 戸田山和久 (2022) 『最新版 論文の教室』, NHK 出版. ● 鹿島茂 (2003) 『勝つための論文の書き方』, 文藝春秋. ● ウェイン・ブース (2018) 『リサーチの技法』, ソシム. | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| ① 毎回の授業でのディスカッションへの貢献とコメントペーパーの提出 ② 各回で課せられる課題の提出 ③ 最終課題の提出 以上, ① (40%), ② (30%), ③ (30%) の総合評価により判定する。 | | | | |
| その他の重要事項 | | | | |
| 論文等、アカデミックな文章の執筆経験がない学生のほか、そうした技術を改めて習得したいと考える学生に履修を推奨する。各教員のオフィスアワーおよび予約の方法については初回の授業で説明する。 本授業はすべての回をオンラインで実施する。 成績評価教員：富井久義 | | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ | |
| | - | ○ | - | |

| | | | | | |
|-------|--------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 実践研究法Ⅱ | | | 科目コード | SDPA1108S |
| 担当教員 | 富井 久義 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 火 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 演習 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、社会調査の発想法や具体的な方法論を理解し、みずから有する課題を探究するにあたって適切な調査方法を選択し、調査の設計・実施・集計・分析・解釈・報告ができるようになることである。

とくに、研究科所属大学院生を対象とした調査票調査である学習時間調査と、修了生を対象とした大学院での学習効果にかんする聞き取り調査を題材に取り上げた演習を取り入れることで、社会調査の手法を実践的に習得することをめざす。

到達目標

- ① 社会調査の主要なねらいや発想法を理解し、調査にもとづく報告書や論文を適切に読み解くことができる。
- ② 社会調査の設計・実施・集計を適切な手法をもちいておこなうことができる。
- ③ 社会調査の分析・解釈・報告を適切な手法をもちいておこなうことができる。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|-------|---|--------|--|
| 第 1 週 | (第 1 講) 社会調査とはなにか・学習時間調査のこれまで ——社会調査、調査倫理、学習時間調査、卒業生調査 | 事前 | シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、選択するグループの検討 (1h) |
| 第 2 週 | (第 2・3 講) 社会調査の設計と実施方法 ——調査企画と設計、調査目的と資源、調査項目案の作成 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、グループでの調査計画検討 (4h) |
| 第 3 週 | (第 4・5 講) 社会調査の準備 ——調査票の作成、調査依頼文の作成 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、グループでの調査票・質問案検討 (4h) |
| 第 4 週 | (第 6・7 講) 社会調査の実践①——プリテストと実査 | 事前 | フィードバックコメントの確認、グループでの調査票・質問案完成 (5h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、学習時間調査・聞き取り調査の実査 (9h) |
| 第 5 週 | (第 8・9 講) 調査データの整理と分析 ——記述統計量・度数分布表・クロス集計表、 トランスクリプト・ケース記録・コーディング | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、グループでの調査データの入力・整理 (4h) |
| 第 6 週 | (第 10・11 講) 社会調査に必要な統計学 ——統計的検定、カイ二乗検定、t 検定、相関係数 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、グループでの調査データの分析 (4h) |
| 第 7 週 | (第 12・13 講) 多変量解析の方法・調査報告の方法論 ——多変量解析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析 | 事前 | フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、グループでの調査データの分析 (4h) |
| 第 8 週 | (第 14・15 講) 社会調査の実践②——調査結果の報告 | 事前 | フィードバックコメントの確認、グループでの発表準備 (5h) |
| | | 事後 | コメントペーパー記入、最終レポート課題の執筆、最終レポート課題相互レビュー (9h) |

授業の進め方と方法

本授業は、第 2 週目以降、2 講連続で実施する。社会調査の発想法や方法論についての講義と、調査票調査または聞き取り調査の設計・実施・集計・分析に取り組む演習の双方を取り入れて授業を進める。授業外にグループで協力して課題に取り組むことも求められる。

毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。

授業で取り組んだ調査結果をもとにした、大学院での学習にかんする考察を求めるグループ発表と、最終レポート課題を課す。最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】

- 社会調査協会，2014，『社会調査事典』丸善出版.
- 佐藤郁哉，2015，『社会調査の考え方 [上・下]』東京大学出版会.
- 大谷信介ほか編，2013，『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房.

評価方法

- | | |
|---------------|-----|
| ● コメントペーパーの内容 | 20% |
| ● 演習課題への貢献 | 40% |
| ● 最終レポート課題の内容 | 40% |

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

| | | | |
|--------------------|------|------|------|
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | - | ○ | - |

| | | | | | |
|-------|-------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 政策過程論 | | | 科目コード | SDPB1201L |
| 担当教員 | 下平 拓哉 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2単位 |
| 配当年次 | 1年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 金 A |
| 年間開講数 | 1回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が政策過程論に関する基礎的な知識とフレームワークを修得するとともに、それらを用いた政策分析を通じて、特定の公共政策が生まれてから評価されるまでの一連の流れを経験的に学修することにある。本授業では、社会問題が政策課題として認識される過程を社会的に検討したのち、政策立案・政策決定・政策実施・政策評価それぞれの具体的なプロセスについて、社会学や組織論といった隣接分野の知見に言及しつつ解説していく。授業は講義とそれに基づく討論により進行する。最終回は履修者が任意の政策分野について政策過程論の視点から分析を加えるグループ発表を行い、それに基づく討論により展開する。

到達目標

- ① 履修者が政策過程論に関する基礎的な知識とフレームワークを身につけ、政策過程論の概念について理解することができる。
- ② 履修者が政策分析し、政策立案・政策決定・政策実施・政策評価それぞれの具体的なプロセスについて説明することができる。
- ④ 履修者が任意の政策分野について政策過程論の視点から分析し、提言することができる。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|------|---|--------|---------------------------------------|
| 第1週 | (第1講) 政策過程論とはなにか イントロダクション、政策過程の視座と方法等について概観する。 | 事前 | シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) |
| 第2週 | (第2講/第3講) 政治過程の理論と方法 政治家、政党、官僚、利益団体、市民などの政治アクターの相互作用、権力の概念等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 第3週 | (第4講/第5講) 政策過程モデル 政策過程の段階モデル、政策過程におけるアクター間の相互作用 (ゴミ缶モデル等) 等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 第4週 | (第6講/第7講) 政策分析とアジェンダ設定 政策分析の8ステップとアジェンダ設定理論等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h) |
| 第5週 | (第8講/第9講) 政策の決定・実施・評価 政策決定と合理性、利益、制度、アイデアの関係、政策の実施とアクターの関係、そして政策評価の手法とその政治的側面等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h) |
| 第6週 | (第10講/第11講) 社会生活における政策過程 政治過程の変容、規範の多様性等を踏まえ、福祉、環境、教育等の今日の社会問題について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) |
| 第7週 | (第12講/第13講) 政策と経営 政策実現への資源管理、政策過程と政策用具 (NATO)、協働モデル等について考究する。 | 事前 | 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |

| | | | | |
|--|---|------|----------------------------------|------|
| 第8週 | (第14講／第15講) 総括討論 「政策過程論」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。 | 事前 | 総括討論に向けた資料作成 (10h) | |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) | |
| 授業の進め方と方法 | | | | |
| <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p> | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| <p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。</p> <p>以下、参考文献を列記する。</p> <p>Christopher M. Weible (2023) <i>Theories of The Policy Process</i> 5th ed., Routledge.</p> <p>ユージン・バーダック (2012) 『政策立案の技法：問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』、東洋経済新報社。</p> <p>伊藤光利他 (2000) 『政治過程論』、有斐閣。</p> <p>大嶽秀夫 (1990) 『政策過程』、東京大学出版会。</p> <p>草野厚 (1997) 『政策過程分析入門』、東京大学出版会。</p> <p>山本清 (2022) 『これからの政策と経営：危機の時代を希望の未来へ』、公人の友社。</p> | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| <p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。</p> <p>60点を超えるものに単位を付与する。</p> <p>1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)</p> <p>2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)</p> | | | | |
| その他の重要事項 | | | | |
| <p>オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)</p> <p>授業実施方法：ハイフレックス</p> | | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | | ○ | - | - |

| | | | | | |
|-------|------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 公共哲学 | | | 科目コード | SDPB1202L |
| 担当教員 | 下平拓哉 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2単位 |
| 配当年次 | 1年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 木B |
| 年間開講数 | 1回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が国内外で多様な論者により議論が深められてきた公共哲学に関する知識を網羅的に身につけるとともに、公共哲学をめぐる論点がどこにあるかの的確に捉えるための視点を修得することにある。本授業では、公共性論・正義論・多文化共生・安全保障といったテーマを中心に解説し、履修者が理想とする社会のグランドデザインや実装を検討する社会起業のベースとなる思想を構築するための手がかりを提供する。授業は講義とそれに基づく討論により進行する。一部の授業では、公共哲学に関する文献講読を行い、履修者からの発表に基づいて授業を展開する。

到達目標

- ① 履修者が公共性、正義といった公共哲学における基本的概念、そして国家、共同体、個人、市場といった公共哲学における重要な諸概念の現代的意義を理解することができる。
- ② 履修者がそうした概念を、現代世界で生起している諸問題との関連で考究し、そうした諸問題の解決策を探る基礎的な能力を身につけることができる。
- ③ 履修者が公権力に係る近現代の名著のエッセンスを理解し、その示唆を現代の具体的事例に照らして解釈し、自分なりの一貫した判断ができる軸を形成することができる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 | |
|------|--|--|
| 第1週 | 事前 (第1講) 公共哲学とはなにか：リップマンとベラー イントロダクション、公共哲学を捉えるための視座と方法等 について概観する。 | 事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h) |
| | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) |
| 第2週 | 事前 (第2講/第3講) 公共哲学の潮流①：市民主義の公共哲学 ハーバーマスとハンナ・アーレント等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) |
| | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 第3週 | 事前 (第4講/第5講) 公共哲学の潮流②：リベラリズムと共同体 主義 (コミュニタリアニズム) の公共哲学 ロールズとサンデル、ノージック等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) |
| | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 第4週 | 事前 (第6講/第7講) 公共哲学の潮流③：モラルサイエンスの公 共哲学 (健全な懐疑主義) ヒュームの「限られた思いやり」と「社会的共感の形成」等 について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) |
| | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h) |
| 第5週 | 事前 (第8講/第9講) 公共哲学の基本問題①：他者 他者、囚人のジレンマ、利他主義等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) |
| | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h) |
| 第6週 | 事前 (第10講/第11講) 公共哲学の基本問題②：上からの民主主 義、下からの民主主義 シュンペーターとダール等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) |
| | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) |
| 第7週 | 事前 (第12講/第13講) 公共哲学の基本問題③：上からの市場主 義、下からの市場主義 福祉国家と市場倫理、多文化状況と寛容等について考究す る。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |
| | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |

| | | | | |
|---|--|------|----------------------------------|------|
| 第8週 | (第14講／第15講) 総括討論 「公共哲学」にかかわる様々な議論について、履修者の問題 関心から報告する。 | 事前 | 総括討論に向けた資料作成 (10h) | |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) | |
| 授業の進め方と方法 | | | | |
| <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p> | | | | |
| 教科書・参考書 C | | | | |
| <p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。</p> <p>以下、参考文献を列記する。</p> <p>ウォルター・リップマン (2023) 『公共哲学』、勁草書房。</p> <p>ロバート・N・ベラー (1991) 『心の習慣』、みすず書房。</p> <p>桂木隆夫 (2005) 『公共哲学とはなんだろう』、勁草書房。</p> <p>山脇直司 (2008) 『グローバル公共哲学』、東京大学出版会。</p> | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| <p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。</p> <p>60点を超えるものに単位を付与する。</p> <p>1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%)</p> <p>2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%)</p> | | | | |
| その他の重要事項 | | | | |
| <p>オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)</p> <p>授業実施方法：ハイフレックス</p> | | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | | ○ | - | ○ |

| | | | | | |
|-------|-------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 産業社会学 | | | 科目コード | SDPB1203L |
| 担当教員 | 富井 久義 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 木 B |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、現代社会の産業構造の変化と、その変化への企業や労働者の対応を、産業・労働社会学と関連する理論に基づいて明らかにすることをつうじて、履修者が取り組む教育・人材育成・教育事業が産業社会においてどのような位置づけを有するのかを検討することにある。

現代社会において求められる教育や人材育成、社会構想のありかたを考え、対象となる人びとの行動変容を効果的にうながすためには、人びとの活躍の場となる産業社会のありかたを理解することや、産業社会を生きる人びとの置かれる状況や主観的意味世界を理解することが大きなヒントとなる。

そこで本授業では、産業や労働に関連する多様なテーマについて、産業・労働社会学と関連する理論的視座から分析を加えることで、現代の産業社会についての理解を深めることをめざす。

到達目標

- ① 現代の産業社会の主要な特徴を理解し、説明することができる。
- ② みずから手がける教育や人材育成の位置づけを、産業・労働社会学の概念をもちいて説明することができる。
- ③ みずから手がける教育や人材育成にかんする取り組みについて、その意義を、企業・労働者・社会それぞれの立場から説明することができる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|--|---|
| 第 1 週 (第 1 講) 産業社会学とはなにか (イントロダクション) ——産業社会学、労働社会学 | 事前 シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h) |
| 第 2 週 (第 2・3 講) 産業構造の変化と社会変動論 ——産業構造の変動、社会変動論、脱産業社会論 | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第 3 週 (第 4・5 講) 技術革新と仕事・職場の変化 ——技術革新、疎外された労働、ブルシット・ジョブ | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第 4 週 (第 6・7 講) 雇用・処遇システム ——職業分類、ジョブ型雇用、日本型雇用システム | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第 5 週 (第 8・9 講) 能力開発とキャリア ——新規学卒採用、職業能力開発、キャリア | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第 6 週 (第 10・11 講) 労使関係と企業コミュニティ ——労使関係、労働組合、企業コミュニティ | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第 7 週 (第 12・13 講) 雇用の流動化と働きかたの多様化 ——雇用の柔軟性、非典型雇用、多様な働きかた | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第 8 週 (第 14・15 講) 労働力移動と離職・転職・失業 | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |

| | | | | |
|---|---------------------------|------|---|--|
| | ——労働力移動、離職・転職・失業、雇用のミスマッチ | 事後 | コメントペーパー記入、授業内容の復習、最終レポート課題への取り組み・執筆、最終レポート課題相互レビュー (16h) | |
| 授業の進め方と方法 | | | | |
| <p>本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。毎週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。</p> <p>このほか、自身の研究課題について産業社会学の観点から考察することを求める最終レポート課題を課す。なお、最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。</p> | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| <p>【教科書】指定しない</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 松永伸太郎・園田薫・中川宗人編，2022，『21世紀の産業・労働社会学』ナカニシヤ出版。 ● 小川慎一ほか，2015，『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』有斐閣。 ● 佐藤博樹・佐藤厚編，2012，『仕事の社会学 [改訂版]』有斐閣。 ● 上林千恵子編，2012，『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房。 | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 最終レポート課題の内容 40% | | | | |
| その他の重要事項 | | | | |
| 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。 | | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ | |
| | ○ | - | - | |

| | | | | | |
|-------|-------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 国際社会学 | | | 科目コード | SDPB1204L |
| 担当教員 | 下平拓哉 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 火 B |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「社会のグローバル化」の本質的な意味を理解するとともに、国境を越えた人間・情報・知識等の移動やそれに反発する諸力のダイナミズムを捉え、言語化し、克服するための視点や方法論を身につけることにある。本授業では、国民国家を超えた社会学的な思考枠組みとして、移民やエスニシティ、アイデンティティ、紛争、地域研究といったキーワードそれぞれについて、事例を交えつつ解説する。授業は講義とそれに基づく討論により進行する。最終回では履修者がグローバル社会の直面する任意の問題を選択し、国際社会学の観点から解決策を提言する。

到達目標

- ① 履修者が国際社会学に関する基礎的な知識とフレームワークを身につけ、国際社会学の概念について理解することができる。
- ② 履修者が国境を越えて広がる社会問題や社会現象について、国際社会的な視点やアプローチを用いて読み解き、それらの関係について説明することができる。
- ④ 履修者が任意の政策分野について国際社会学の視点から分析し、提言することができる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|---|--|
| 第1週 (第1講) 国際社会学とはなにか イントロダクション、国際社会学の射程、国際社会と平和等について概観する。 | 事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く (3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) |
| 第2週 (第2講/第3講) 想像の共同体 国民国家、ナショナリズム、グローバル化等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 第3週 (第4講/第5講) エスニシティと人種 民族、移民、難民、エスニシティの多様性、ジェンダー、人種差別と多文化主義等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 第4週 (第6講/第7講) アイデンティティ ナショナル・アイデンティティ、民主主義の揺らぎ、多文化共生、社会構成主義等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h) |
| 第5週 (第8講/第9講) 紛争と地域研究 人間の安全保障、人道的介入、平和構築、地域統合等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (1h) |
| 第6週 (第10講/第11講) 国境を越える義務 トランスナショナル、コンストラクティヴィズム、倫理、人権、配分的正義等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料探索 (2h) |
| 第7週 (第12講/第13講) 世界秩序への道 均衡・協調・共同体、主権国家システムの衰退と改革等について考究する。 | 事前 事前配布資料を読む (3h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |
| 第8週 (第14講/第15講) 総括討論 | 事前 総括討論に向けた資料作成 (10h) |

| | | | |
|--|---------------------------------------|------|----------------------------------|
| | 「国際社会学」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。 | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 授業の進め方と方法 | | | |
| <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p> | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| <p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。</p> <p>以下、参考文献を列記する。</p> <p>スタンリー・ホフマン (1985) 『国境を超えた義務』、三省堂。</p> <p>ブルース・ラセット (1996) 『パクス・デモクラティア』、東京大学出版会。</p> <p>ヘドリー・ブル (2000) 『国際社会論』、岩波書店。</p> <p>ヘンリー・キッシンジャー (2016) 『国際秩序』、日本経済新聞出版社。</p> <p>ベネディクト・アンダーソン (1997) 『想像の共同体』、NTT 出版。</p> <p>西原和久・芝真里編訳 (2016) 『国際社会学の射程』、東信堂。</p> <p>西原和久 (2020) 『現代国際社会学のフロンティア』、東信堂。</p> <p>宮島喬他 (2023) 『国際社会学 改訂版』、有斐閣。</p> | | | |
| 評価方法 | | | |
| <p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。</p> <p>60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%) | | | |
| その他の重要事項 | | | |
| <p>オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)</p> <p>授業実施方法：ハイフレックス</p> | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | ○ | - | - |

| | | | | | |
|---|--|------|---|--------|-----------|
| 授業名称 | 都市社会学 | | | 科目コード | SDPB1205L |
| 担当教員 | 池邊 このみ | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 月 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |
| 授業の目的 | | | | | |
| <p>本授業の目的は、都市社会学の構造や仕組みを学ぶことによって、大都市や、地方都市などの地域の立地特性や人口構造、産業特性などの特徴を把握し、現代地域における都市社会学のあり方を学ぶことを目的とする。大都市や地方都市においても、コロナ禍を経て社会変貌が著しい。そうした社会情勢を踏まえ、現代社会に求められる地域コミュニティのあり方などを学び、持続可能な社会を目指した地域社会のために必要な政策や事業、ハード、ソフトの仕組みなどの戦略やスキーム、組織や体制等についての提案ができることを目的とする。</p> | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <p>① 履修者が都市社会における課題について、資料収集、現地調査・ヒアリング、データ解析、などを踏まえて地域課題について検討することができるようになる。</p> <p>② 履修者が上記、検討を踏まえて、グループディスカッション等により、都市社会の課題に対する解決策をチームでの意見を踏まえ、検討し、提案する力をつける。</p> <p>③ 履修者が自身の提案実現に際して、必要な予算や実現するために必要な体制、各種のステークホルダーの参加などを含めたソフトやハードの提案を考えることができるようになる。</p> | | | | | |
| 授業計画 | | | | 授業外の学習 | |
| 第 1 週 | (第 1 講) 都市社会学とは何か、都市社会学の基礎を学ぶ | 事前 | キーワード検索 (2h) | | |
| | | 事後 | コメントペーパーの記載 (2h) | | |
| 第 2 週 | (第 2 講) 現代社会における都市コミュニティと地域社会 (第 3 講) 地方都市におけるコミュニティと地域社会 | 事前 | 事例検索 (2h) | | |
| | | 事後 | コメントペーパーの記載 (2h) | | |
| 第 3 週 | (第 4 講) 現代社会に求められる地域像と都市社会像 (第 5 講) 現代社会に求められる地域像と地域社会像 必要とされる都市社会像のまとめ | 事前 | 参考文献の予習 (2h) | | |
| | | 事後 | グループディスカッションを踏まえた現代社会に求められる地域像の記載 (4h) | | |
| 第 4 週 | (第 6 講) 対象フィールドの検討とまとめ 選定理由、想定成果等を発表する (各自) (第 7 講) 対象フィールドを検討のための必要とするデータ、 文献等を分析し地域の目標像を明らかにする | 事前 | 対象フィールドの選定理由 (4h) | | |
| | | 事後 | フィールドの選定理由と地域社会の目標像の仮説 (コメントペーパーの記載) (4h) | | |
| 第 5 週 | (第 8 講) 対象フィールドの課題に対して、都市社会の観点から必要とされる政策や事業、支援の検討 (各自発表) (第 9 講) 都市社会に求められる政策や事業などを行うにあたり、それを定量的あるいは定性的にどのような指標により成果が把握できるかを検討 (各自発表) | 事前 | 各種政策や支援策の事例検索 (4h) | | |
| | | 事後 | 各自の対象フィールドの地域社会のために必要な政策、事業についてのコメントペーパー (4h) | | |
| 第 6 週 | (第 10 講) 地域の活性化、持続可能性を想定した都市社会を構成する主体、組織、体制、運営、管理の検討 | 事前 | 都市社会の構造の検討 (4h) | | |

| | | | |
|-----|---|----|-------------------------------|
| | (第11講) 上記、講義後、ディスカッション | 事後 | ディスカッションを踏まえたコメントペーパーの記載 (4h) |
| 第7週 | (第12講) 改めて、今後の都市社会を円滑に運営していくための地域運営や人材、地域管理のあり方とは何か (第13講) 各地の事例を踏まえた都市社会の変革 | 事前 | 地域運営についての検討 (4h) |
| | | 事後 | 今後求められる地域社会像 (コメントペーパー) (4h) |
| 第8週 | (第14講) 対象フィールドにおける課題解決策、目標像、成果指標、各種のステークホルダーとの関係の検討 (第15講) ディスカッションと取りまとめ | 事前 | 最終レポートの準備 (4h) |
| | | 事後 | 最終成果の作成 (10h) (PPTにて前日0時まで提出) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、原則、教員が用意した教材による講義と、各自が興味のある地方自治体を選択し、そこを調査研究フィールドとして進める。途中、グループディスカッションを初期の対象地域の特徴と課題について、とりまとめた段階で1回、最終提案を取りまとめる課程で1回実施する。上記では、グループや各自での発表を授業内で想定しているが、人数に応じて調整を行う。

教科書・参考書

教科書 指定しない

参考書 オルタナティブ地域社会学入門 渡邊悟史他編 2023 ナカニシヤ出版

地域・都市の社会学: 実感から問いを深める 平井太郎他共著 2022 有斐閣ストゥディア

評価方法

評価は、各回のコメントペーパー40%、最終レポート60%で最終評価を行う。

- コメントペーパーは三段階評価とし、各回の点数の合計を講義回数で割り、個人のコメントペーパー点とする。やむをえず欠席した場合には、事前連絡がある場合のみ、講義後、講義資料をみてコメントペーパーを提出すれば、上記点数に加え、出席扱いとする。
- 最終レポートは、上記のように前日0時までの提出を条件とし、遅れたものは評価対象外とする。また、最終日の口頭発表までを最終成果として評価する。

その他の重要事項

授業以外の時間のオフィスアワーの予約は、TEAMSにより実施。各回、1時間以内で実施、グループディスカッションも可とする、但し、機会均等の観点から、回数は、一人当たり、4回までとする。

授業実施方法は、ハイフレックスとする。

| | | | |
|--------------------|------|------|------|
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | ○ | - | - |

| | | | | | |
|-------|-------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 福祉社会学 | | | 科目コード | SDPB2207L |
| 担当教員 | 富井 久義 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2単位 |
| 配当年次 | 2年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 水B |
| 年間開講数 | 1回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、現代社会における福祉の動向とそれをめぐる人びとの取り組みや対応について、福祉社会学と関連する理論に基づいて検討する視座を得ることにある。

現代社会において福祉は私たちの生活と密接に結びついている。そのため、社会構想を掲げて社会課題に取り組み、実行可能な解決策を見いだしていくにあたっては、関連する福祉をめぐる政策・施策の動向を読み解くことが大きなヒントとなる。

そこで本授業では、福祉をめぐる政策・施策を領域別に取り上げて検討するなかで、履修者の関心や課題に近い福祉社会学の視座を習得することをめざす。

到達目標

- ① 現代の福祉をめぐる政策・施策の動向の特徴を理解し、説明することができる。
- ② 現代の福祉をめぐる諸政策・施策を説明するために、適切な福祉社会学の理論枠組みを挙げることができる。
- ③ 関心をもつ福祉や福祉政策をめぐる政策・施策について、福祉社会学の理論枠組みをもちいて検討することができる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|--|--|
| 第1週 (第1講) 福祉社会学とはなにか (イントロダクション) ——再分配、ニーズ、社会的排除 | 事前 シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習、予習・復習スケジュールの割当検討 (4h) |
| 第2週 (第2・3講) 福祉国家論と社会保障 ——福祉レジーム、福祉国家の危機、福祉多元主義 | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第3週 (第4・5講) 貧困と公的扶助 ——ナショナルミニマム、貧困と剥奪、スティグマ | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第4週 (第6・7講) 障害者福祉とケア ——障害の社会モデル、自己決定、当事者主権 | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第5週 (第8・9講) 高齢者福祉とケア ——高齢化、公的年金・介護保険、エイジング・看取り・死 | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第6週 (第10・11講) 児童福祉とケア ——子どもの貧困、社会的養護、子育て支援 | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第7週 (第12・13講) 福祉と労働 ——ケア労働、専門職、感情労働・感情規則 | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習 (3h) |
| 第8週 (第14・15講) 福祉と社会運動、サードセクター ——当事者運動、福祉NPO・ボランティア、社会的企業 | 事前 フィードバックコメントの確認、授業タイトル・キーワードの予習 (3h) |
| | 事後 コメントペーパー記入、授業内容の復習、最終レポート課題への取り組み・執筆、最終レポート課題相互レビ |

| | | | |
|---|------|------|----------|
| | | | ユー (16h) |
| 授業の進め方と方法 | | | |
| <p>本授業は、第2週目以降、2講連続で実施する。毎週の授業は概ね、前回のふりかえり、授業のねらいの確認、講義（話題提供）、ディスカッション（演習課題）で構成される。教員が用意するスライド資料に沿って進行する。質問は随時、発言またはチャットで受け付ける。ディスカッションは、毎週のテーマに関連する主題について、グループで検討して全体発表をする方法か、各自コメントペーパーに記入して教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業で学んだこと、意見・質問・感想、演習課題への貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーには教員からフィードバックのコメントを返す。このうち重要なものについては、次週の授業冒頭のふりかえりの際に紹介する。</p> <p>このほか、自身の研究課題について福祉社会学の観点から考察することを求める最終レポート課題を課す。なお、最終レポート課題は提出期限後、履修者が相互に閲覧可能な期間を設ける。</p> | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| <p>【教科書】 指定しない</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 武川正吾ほか編，2020，『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房。 ● 福祉社会学会編，2013，『福祉社会学ハンドブック』中央法規。 ● 福祉社会学会編，2023，『福祉社会学文献ガイド』学文社。 | | | |
| 評価方法 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● コメントペーパーの内容 30% ● ディスカッションへの貢献 30% ● 最終レポート課題の内容 40% | | | |
| その他の重要事項 | | | |
| 担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。 | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | ○ | - | ○ |

| | | | | | |
|-------|---------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 社会システム論 | | | 科目コード | SDPC2302L |
| 担当教員 | 徳宮 俊貴 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 2 年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 火 B |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「社会」や「社会制度」、「社会的秩序」がなぜ・どのように編成されるか、また、人びとが自由に振る舞うにもかかわらずなぜ高度に複雑化した社会が成立するのかといった問題に対して取り組むための思考枠組みを身につけることにある。本授業では、ニクラス・ルーマンの社会システム理論を手がかりとして多様なフレームワークを学びつつ、それらを活用して現代社会の諸側面を分析する実践を通じて、社会のダイナミズムを捉えるための思想と技術を提供する。授業は講義とそれに基づく討論により進行する。

到達目標

- ① 履修者が社会システム論および関連する理論や視点を説明できるようになる。
- ② 履修者が他者との対話に基づき社会システム論の有用性や課題について検討できるようになる。
- ④ 履修者が社会システム論および関連する理論や視点をもとに現代社会を説得的に分析できるようになる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|---|---|
| 第 1 週 (第 1 講) イントロダクション：社会学理論としての社会システム論 | 事前 シラバスの閲読 (0.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第 2 週 (第 2 講・第 3 講) 社会システム論前史：社会有機体説と機能主義 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第 3 週 (第 4 講・第 5 講) パーソンズの行為理論における社会システム：形成史、展開、問題点 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第 4 週 (第 6 講・第 7 講) 戦後日本社会学における社会システム論と社会計画論の盛衰 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第 5 週 (第 8 講・第 9 講) ルーマンの社会システム論 (1)：形成史と展開 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第 6 週 (第 10 講・第 11 講) ルーマンの社会システム論 (2)：現代社会分析 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第 7 週 (第 12 講・第 13 講) 社会システム論の応用研究事例：有用性と問題点 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第 8 週 (第 14 講・第 15 講) 総合討論：社会システム論から考える現代社会のゆくえ | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 最終レポート (13h) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。また履修者は、学

んだ内容が自らの実務とどう関係するか、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてコメントペーパーに記入し、毎回の授業後に提出する。

教科書・参考書

[教科書] 指定しない。

[参考書]

ニクラス・ルーマン (2007) 『ニクラス・ルーマン講義録 1 システム理論入門』 新泉社.

ニクラス・ルーマン (2009) 『ニクラス・ルーマン講義録 2 社会理論入門』 新泉社.

クリスティアン・ボルフ (2014) 『ニクラス・ルーマン入門—社会システム理論とは何か』 新泉社.

佐藤勉編 (1997) 『コミュニケーションと社会システム—パーソンズ・ハーバーマス・ルーマン』 恒星社厚生閣.

青井和夫編 (1974) 『社会学講座 1 理論社会学』 東京大学出版会.

遠藤薫・佐藤嘉倫・今田高俊編 (2016) 『社会理論の再興—社会システム論と再帰的自己組織性を超えて』 ミネルヴァ書房.

*その他、各回の関連文献を授業中に適宜紹介する。

評価方法

コメントペーパー 40% = (講義内容の要約 2 点 + コメント 3 点) × 8 回

最終レポート 60% = (課題図書 of 要約 20 点 + 論述 40 点)

その他の重要事項

—

| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
|--------------------|------|------|------|
| | ○ | — | — |

| | | | | | |
|-------|--------------|------|-----------|-------|-----------|
| 授業名称 | パブリック・アフェアーズ | | | 科目コード | SDPC2303L |
| 担当教員 | 北島 純 | 実施方法 | 一部ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 2 年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 水 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が「パブリック・アフェアーズの基本的知識」を身につけることにある。

「企業・団体」から「政府（行政府）」（中央省庁・地方自治体）や「議会」（国会議員・地方議会議員）へどう働きかけるかという「ロビイング」（法改正・予算獲得・規制緩和/強化等に関わる陳情・働き掛け等の渉外活動や情報収集等）や「アドボカシー」（政策提案等）、企業・団体が「市民」（消費者）といかに良好な関係を構築するかという「パブリック・リレーションズ」（Public Relations）の実務的技法は、社会のグランドデザインを構想する上で必要不可欠の素養である。本授業では、我が国における政策決定や法令執行のプロセス、政策に関わるビジネス関連法令の基礎的知識や、グローバル広報の成功例・失敗例、ポリティカル・コンプライアンスのケース等の紹介を織り交ぜながら、パブリック・アフェアーズの実践的技法を検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、パブリック・アフェアーズの基本的知識を習得できるようになる。
- ② 履修者が、習得したパブリック・アフェアーズの基本的知識をもとに、自ら（または自らの属する組織）に関わる政策的課題を客観的に分析・評価し、その解決方法を提言できるようになる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|--|---|
| 第1週 (第1講) なぜ「パブリック・アフェアーズ」が必要か | 事前 シラバスの精読 (0.5h) 授業における質問事項の検討 (1h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第2週 (第2・3講) パブリック・アフェアーズの基礎Ⅰ—ロビイング・アドボカシー・パブリック・リレーションズ | 事前 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第3週 (第4・5講) パブリック・アフェアーズの基礎Ⅱ—デモクラシー国家における政府への要望とルール形成戦略 | 事前 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第4週 (第6・7講) パブリック・アフェアーズの基礎Ⅲ—グローバル・パブリック・アフェアーズ | 事前 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第5週 (第8・9講) パブリック・アフェアーズのケース研究Ⅰ—日本の立法・政策・法執行における「意図」の解析 | 事前 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第6週 (第10・11講) パブリック・アフェアーズのケース研究Ⅱ—EU/USA 主導のコンプライアンス規制 | 事前 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第7週 (第12・13講) パブリック・アフェアーズのケース研究Ⅲ—理想を社会実装する社会構想戦略 | 事前 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第8週 (第14・15講) パブリック・アフェアーズと倫理—政治と説明責任及び倫理 | 事前 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) 最終レポート課題 (21h) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義及びディスカッション（ディベート含む）を中心に進行する。履修者は、学んだ内容が「自らの実務や社会構想と具体的にどのように関係するか」等の事柄についてコメントペーパーに記入し、毎回の授業終了後に提出する。

なお、専門家をゲスト講師として招聘し議論を深める予定である。

教科書・参考書

教科書：指定しない。

参考書：アニュ・ブラッドフォード（2022）『ブリュッセル効果 EUの覇権戦略』，白水社
 クレメンス・ヨース、フランツ・ヴァルデンベルガー（2005）『EUにおけるロビー活動』，日本経済評論社
 官澤康平、南知果、徐東輝、松田大輝（2021）『ルールメイキングの戦略と実務』，商事法務
 北島純（2011）『解説 外国公務員贈賄罪—立法の経緯から実務対応まで』，中央経済社

評価方法

- ① 毎回の授業における議論への参加とコメントペーパーの提出
 - ② 最終課題の提出
- 総合的な評価（①60%、②40%）により判定する。

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。
 本授業は第1週と第8週をハイフレックス、第2週から第7週を原則としてオンラインで実施する。

| | DP ① | DP ② | DP ③ |
|--------------------|------|------|------|
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | - | ○ | - |

| | | | | | |
|-------|---------|------|-----------|-------|-----------|
| 授業名称 | デジタル社会論 | | | 科目コード | SDPC2304L |
| 担当教員 | 橋本 純次 | 実施方法 | 一部ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1・2 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 金 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者がデジタル社会と呼ばれる現代社会の諸側面について体系的かつ本質的な知識を身につけるとともに、デジタル社会の特性を前提として自らの構想する社会のグランドデザインや社会起業を実装できるようになること、ひいてはデジタル社会そのものの改善に積極的に関与するための能力（デジタル・シティズンシップ）を体系的に修得することにある。本授業では、情報倫理、情報哲学、社会情報学といった多様な観点から現代情報社会の諸問題を分析するための視座を提供する。併せて、デジタル・シティズンシップ教育や情報教育の現状と課題についても整理し、情報社会の負の側面を克服するためにいかなる教育やコミュニケーションが必要かという点についても議論する。

到達目標

- ① 履修者が、デジタル社会の現状について自身の言葉で説明できるようになる。
- ② 履修者が、デジタル・シティズンシップやデジタル・シティズンシップ教育に関する基礎知識を修得する。
- ③ 履修者が、デジタル社会を改善するための効果的な方法を検討し、その限界と併せて自分の言葉で説明できるようになる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|--|--|
| 第1週 (第1講) オリエンテーション：情報空間の終焉とメディア・リテラシーの限界 | 事前 シラバスの精読 (0.5h) 授業での質問事項の検討 (1h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 指定された文献の精読 (1.5h) |
| 第2週 (第2・3講) デジタル社会をめぐる諸問題：情報技術による人間の擬似蘇生・ネット炎上と誹謗中傷を中心に | 事前 授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (2h) 指定されたビデオ教材の視聴 (1h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第3週 (第4・5講) デジタル社会が民主主義にもたらしうる変化とその限界：電子投票・プライバシーの権利を中心に | 事前 授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (2h) ディスカッションの準備 (1h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第4週 (第6・7講) 情報倫理と情報哲学：「うまく生き抜く方法論」から「健全な情報環境の保全」への転換 | 事前 授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第5週 (第8・9講) シティズンシップとデジタル・シティズンシップ：デジタル社会への積極的関与に向けて | 事前 授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (2h) 指定されたビデオ教材の視聴 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第6週 (第10・11講) 国内における情報教育／メディア・リテラシー教育／デジタル・シティズンシップ教育の現状と課題 | 事前 授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (2h) 指定されたビデオ教材の視聴 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第7週 (第12・13講) 法制度とアーキテクチャによる情報空間の制御：現代情報法制の網羅的検討 | 事前 授業資料の確認 (1h) 指定された文献の精読 (2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第8週 (第14・15講) 最終プレゼンテーション：デジタル社会の改善はいかにして可能か | 事前 プレゼンテーションの準備 (11h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) ディスカッションの復習 (2h) |

| | | | |
|---|------|------|------|
| 授業の進め方と方法 | | | |
| 上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションにより進行する。とりわけ第8週では履修者各自が調査に基づき資料を作成し、それに基づく全体討論を行う。 | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| 教科書は指定しない。 参考書：西垣通・伊藤守 編著（2015）『よくわかる社会情報学』，ミネルヴァ書房。 木村忠正（2018）『ハイブリッド・エスノグラフィー——NC研究の質的方法と実践』，新曜社。 柴田邦臣（2019）『<情弱>の社会学——ポスト・ビッグデータ時代の生の技法』，青土社。 岡野一郎（2022）『共生のための社会情報学』，農林統計出版。 common sense education ウェブサイト | | | |
| 評価方法 | | | |
| ① 毎回の授業での議論への貢献とコメントペーパーの提出 ② 最終プレゼンテーション ③ 最終小レポート 以上、①（40%）、②（30%）、③（30%）の総合評価により判定する。 ※ 最終プレゼンテーションに出席できない場合は、別日で調整する。 | | | |
| その他の重要事項 | | | |
| 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回授業で説明する。 本授業は第1週と第8週をハイフレックス、第2週から第7週をオンラインで実施する。 | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | - | ○ | ○ |

| | | | | | |
|-------|-------|------|-----------|-------|-----------|
| 授業名称 | 国際関係論 | | | 科目コード | SDPC2305L |
| 担当教員 | 北島 純 | 実施方法 | 一部ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 2 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 水 B |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が国際関係論の知見を通じてグローバル社会を分析する視座を身につけ、国際的諸課題を分析するための基礎的技法を習得し、もってグローバル社会におけるグランドデザインを構想する一助とすることにある。

本授業では、国際関係論の分野で構築されてきた理論的視座と方法論を紹介しながら、現実のグローバル社会で生起している課題（イシュー）を都度取り上げ、ケース研究を通じて実践的に、高度専門職業人としての各自のスタンスから「あるべき社会を構想する能力」の醸成に努めていく。

到達目標

- ① 履修者が、国際関係論の基本的知識を習得できるようになる。
- ② 履修者が、習得した国際関係論の基本的知識をもとに、自ら（または自らの属する組織）に関わる国際的課題を客観的に分析・評価し、その解決方法を構想できるようになる。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|-------|--|--------|--|
| 第 1 週 | (第 1 講) ガイダンス：国際関係論とは何か | 事前 | シラバスの精読 (0.5h) 授業における質問事項の検討 (1h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 2 週 | (第 2 講) 国際関係論の理論的視座 (第 3 講) リアリズム/リベラリズム/世界システム論/構成主義 | 事前 | 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 3 週 | (第 4 講) 国際関係論における主体 (第 5 講) 主権国家/国際機関/グローバル企業/市民社会 | 事前 | 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 4 週 | (第 6 講) 国際関係論における方法論 (第 7 講) ウェストファリア体制史/地域研究/ゲーム理論 | 事前 | 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 5 週 | (第 8 講) 国際関係論におけるイシュー I (第 9 講) 安全保障/経済安保/地政学 | 事前 | 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 6 週 | (第 10 講) 国際関係論におけるイシュー II (第 11 講) ルール形成/SX/AI 規制 | 事前 | 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 7 週 | (第 12 講) 国際関係論におけるイシュー III (第 13 講) ビジネスと人権/移民難民/WPS (女性平和安全保障) | 事前 | 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 8 週 | (第 14 講) グローバリズムと反グローバリズム (第 15 講) 国際関係論と倫理 | 事前 | 授業資料の確認 (0.5h) ディスカッションの準備 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (0.5h) ディスカッションの復習 (2h) 最終レポート課題 (21h) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。

また履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係するか、どのように役立つ可能性があるかといった事柄に

| | | | |
|--|-------------|-------------|-------------|
| <p>ついて A4「1枚」程度のペーパー（コメントペーパー）を毎回の授業後に提出すること。</p> | | | |
| <p>教科書・参考書</p> | | | |
| <p>教科書：指定しない。 参考書：西谷真規子・山田高敬編（2021）『新時代のグローバル・ガバナンス論 制度・過程・行為主体』，ミネ ルヴァ書房 ヘンリー・A・キッシンジャー（2009）『キッシンジャー 回復された世界平和』，原書房</p> | | | |
| <p>評価方法</p> | | | |
| <p>① 毎回の授業での議論への参加とコメントペーパーの提出 ② 最終レポート課題 以上、①（60%）、②（40%）の総合評価により判定する。</p> | | | |
| <p>その他の重要事項</p> | | | |
| <p>担当教員のオフィスアワーおよび予約方法については、初回の授業で説明する。 本授業は第1週と第8週をハイフレックス、第2週から第7週を原則としてオンラインで実施する。</p> | | | |
| <p>本科目と対応するディプロマ・ポリシー</p> | <p>DP ①</p> | <p>DP ②</p> | <p>DP ③</p> |
| | <p>-</p> | <p>○</p> | <p>○</p> |

| | | | | | |
|-------|---------------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 異文化間コミュニケーション | | | 科目コード | SDPC2306L |
| 担当教員 | 徳宮 俊貴 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2単位 |
| 配当年次 | 2年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 土B(3・4限) |
| 年間開講数 | 1回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が異文化間コミュニケーションを促進・阻害する要因について理論的視座を踏まえつつ基本的な知識を修得するとともに、異文化のコミュニティや人びとを理解するための方法論としての研究技法を身につけることにある。本授業では、異文化間コミュニケーションや比較文化論を理論的基盤としつつ、ケーススタディを通じて履修者がそのリアリティとダイナミクスを捉える機会を提供する。授業は講義とそれに基づく討論により進行する。主に社会人を対象とした教育機関であるという本研究科の特性に鑑みて、履修者自身の社会人経験を全体で共有する機会を多く設ける。

到達目標

- ① 履修者が異文化間コミュニケーションに関連する理論や視点を説明できるようになる。
- ② 履修者が他者との対話に基づき現代社会および現代日本の多文化化・多国籍化について検討できるようになる。
- ③ 履修者が修得した理論や視点をもとに現代社会および現代日本における異文化間コミュニケーションを説得的に分析できるようになる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|--|---|
| 第1週 (第1講) イントロダクション:「異文化間コミュニケーション」への社会的アプローチ | 事前 シラバスの閲読 (0.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第2週 (第2講・第3講) グローバル化時代における国際移動:巨視的理論の検討 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第3週 (第4講・第5講) 日本の多文化化・多国籍化の現況:地方部の技能実習生を中心に | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第4週 (第6講・第7講) コミュニケーションの型としての文化:古典期の社会学理論における文化の扱い | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第5週 (第8講・第9講) グローバル化時代における文化の社会学:言語と理性から視覚と感情へ | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第6週 (第10講・第11講) コミュニケーションの社会学:パーソンズ以後の諸理論・学説における基本視角 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第7週 (第12講・第13講) 多文化主義/ポスト多文化主義の諸思想:その射程と実践事例 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 参考書および関連文献の閲読 (3h) |
| 第8週 (第14講・第15講) 総合討論:「異文化間コミュニケーション」の現在と未来 | 事前 参考書および関連文献の閲読 (2.5h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出 (1h) 最終レポート (13h) |

| | | | |
|---|------|------|------|
| 授業の進め方と方法 | | | |
| 上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義とディスカッションを中心に進行する。また履修者は、学んだ内容が自らの実務とどう関係するか、どのように役立つ可能性があるか、といった事柄についてコメントペーパーに記入し、毎回の授業後に提出する。 | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| [教科書] 指定しない。 [参考書] S. カースルズ/M.J. ミラー (2011) 『国際移民の時代 第4版』名古屋大学出版会. 青木保 (2001) 『異文化理解』岩波新書. 長谷正人・奥村隆編 (2009) 『コミュニケーションの社会学』有斐閣. 丸山哲央 (2010) 『文化のグローバル化—変容する人間世界』ミネルヴァ書房. 永吉希久子 (2020) 『移民と日本社会—データで読み解く実態と将来像』中公新書. 徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編『地方発 多文化共生のしくみづくり』晃洋書房, 2023年. *その他、各回の関連文献を授業中に適宜紹介する。 | | | |
| 評価方法 | | | |
| コメントペーパー 40% = (講義内容の要約2点+コメント3点) ×8回 最終レポート 60% = (課題図書 of 要約20点+論述40点) | | | |
| その他の重要事項 | | | |
| 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。 | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | - | - | ○ |

| | | | | | |
|-------|---------|------|---------|-------|----------|
| 授業名称 | 国際安全保障論 | | | 科目コード | 国際安全保障論 |
| 担当教員 | 下平拓哉 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2単位 |
| 配当年次 | 2年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 土B(1・2限) |
| 年間開講数 | 1回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が軍事防衛、エネルギー、リスク管理をはじめとする国際安全保障に関連する知見を体系的に修得し、諸問題の本質を理解するとともに、そうした問題を解決するためにいかなる制度や国際社会、国際協調のグランドデザインが求められるか検討するための能力を身につけることにある。本授業では国際安全保障に関するケーススタディを行い、単一領域の知識や理論のみならず、実務上の観点についても知見を提供する。授業は講義とそれに基づく討論により進行する。いくつかの回は履修者からのケースに関する発表とそれに基づく討論により進行する。

到達目標

- ① 履修者が安全保障ないし軍事問題に関する理論的な分析枠組みおよび諸概念を理解することができる。
- ② 履修者が日本そして世界を取り巻く安全保障環境の変化について理解し、安全保障観の変容について説明することができる。
- ④ 履修者が現代国際社会における重要な安全保障問題について考究し、国際社会の平和と安定に向けての提言ができる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|------|--|
| 第1週 | 事前 シラバスを読み、参考文献リストを見て本授業の見取り図を描く(3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) |
| 第2週 | 事前 事前配布資料を読む(3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h) |
| 第3週 | 事前 事前配布資料を読む(3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) リサーチワーク(3h) |
| 第4週 | 事前 事前配布資料を読む(3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h) |
| 第5週 | 事前 事前配布資料を読む(3h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(1h) |
| 第6週 | 事前 事前配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料探索(2h) |
| | 事後 コメントペーパーの提出(1h) 総括討論に向けた資料探索(2h) |
| 第7週 | 事前 事前配布資料を読む(3h) 総括討論に向けた資料作成(3h) |

| | | | |
|---|---|------|---------------------------------------|
| | 新たな脅威、リベラル国際秩序の動揺、米国の役割等について考究する。 | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) 総括討論に向けた資料作成 (3h) |
| 第 8 週 | (第 14 講/第 15 講) 総括討論 「国際安全保障論」にかかわる様々な議論について、履修者の問題関心から報告する。 | 事前 | 総括討論に向けた資料作成 (10h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの提出 (1h) リサーチワーク (3h) |
| 授業の進め方と方法 | | | |
| <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義法とグループワーク法ならびにペアワーク法を用いる。本授業については、それぞれの授業週でひとつのトピックを深く考究するため、90分×2コマ連続で実施する。また、授業終了ごとにコメントペーパーを提出することを求め、履修者の関心を維持する。</p> <p>※リサーチワークとは、本授業内容をもとにして履修者の関心に応じて研究活動を実践することである。</p> | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| <p>教科書は指定しない。それぞれの授業で Lecture Note を配布する。</p> <p>以下、参考文献を列記する。</p> <p>Alan Collins (2022) <i>Contemporary Security Studies</i> 6th ed., Oxford University Press.</p> <p>A. オラー他 (2023) 『国家安全保証戦略入門』、並木書房。</p> <p>ジョセフ・S・ナイ・ジュニア他 (2017) 『国際紛争—理論と歴史 原書第 10 版』、有斐閣。</p> <p>兼原信克 (2021) 『安全保障戦略』、日本経済新聞出版。</p> <p>栗栖弘臣 (1997) 『安全保障概論』、BBA 社。</p> <p>高橋哲哉・山影進編 (2008) 『人間の安全保障』、東京大学出版会。</p> <p>防衛大学校安全保障学研究会編 (2003) 『新訂第 5 版 安全保障学入門』、亜紀書房。</p> | | | |
| 評価方法 | | | |
| <p>以下の観点ごとに評価し、100点満点になるよう換算する。</p> <p>60点を超えるものに単位を付与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ごとにコメントを書き提出を求める「コメントペーパー」(35%) 2. 最終授業回での発表ならびにディスカッション (65%) | | | |
| その他の重要事項 | | | |
| <p>オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡 (相談内容については問わない)</p> <p>授業実施方法：ハイフレックス</p> | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | — | ○ | ○ |

| | | | | | |
|-------|---------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 社会起業構想論 | | | 科目コード | SDPC1308S |
| 担当教員 | 池邊 このみ | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 水 B |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 演習 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

社会構想研究科の目的は、社会の諸側面を分析するための深淵な学識を身につけ、社会課題の解決を図るための卓越した能力を培うことで、長期的な視野から社会善を追求し、その実現のために社会や組織のグランドデザインを描くことのできる人材や、新たな社会的価値を創出できる人材を養成することにある。

本授業では、上記を踏まえ、社会的起業をはじめとする経済活動を通じて社会課題の解決に貢献するためには、社会課題それ自体への理解はもとより、経営学や産業社会学をはじめとする知見や、ステークホルダーとの「対話と協働」を実現するための方策を修得することを目的として実施する。

到達目標

- ④ 履修者が社会起業、ソーシャル・ビジネスについて理解し、社会起業構想を描くことができるようになる。
- ⑤ 履修者が、経済産業省がソーシャル・ビジネスに対して掲げる 3 つの定義「社会問題を解決するものであること」「利益を上げる事業であること」「新たなビジネスモデルであること」を理解して、現代社会における社会起業構想の重要性を認識できるようになること。
- ⑥ 履修者が地域の社会的資源を活用し、新たなソーシャル・ビジネスの構想を提案できることを目指す。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|-------|---|--------|--|
| 第 1 週 | (第 1 講) 社会起業とは何か、社会起業家 (ソーシャル・アントレプレナー)、についての基礎知識 | 事前 | キーワード検索 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの記載 (2h) |
| 第 2 週 | (第 2 講) 事例にみる社会起業とその特徴 (第 3 講) CSR と SDGs、ESG 投資等の動向 | 事前 | 事例検索 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの記載 (2h) |
| 第 3 週 | (第 4 講) 社会起業家支援の実態 (国、地方自治体、海外) (第 5 講) ソーシャル・イノベーションとは何か | 事前 | 事例検索 (2h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの記載 (4h) |
| 第 4 週 | (第 6 講) 現代社会における社会課題とソーシャル・イノベーション (グループディスカッション・発表) (第 7 講) 地域で求められるソーシャル・ビジネスとその課題 (グループディスカッション・発表) | 事前 | 社会課題とソーシャル・イノベーションについての検討 (4h) |
| | | 事後 | コメントペーパーの記載 (4h) |
| 第 5 週 | (第 8 講) ソーシャル・ビジネスに必要とされる支援・連携 (第 9 講) 自分の考えるソーシャル・ビジネスの内容、成果、スキーム等 (各自作成、発表) | 事前 | ソーシャル・ビジネスに必要とされる支援策について (4h) |
| | | 事後 | 自分の考えるソーシャル・ビジネスの記載 (4h) |
| 第 6 週 | (第 10 講) ソーシャル・ビジネスを提案できる対象地域を選び、選択理由や地域特性、課題などを検討 (第 11 講) ソーシャル・ビジネスを企業として成立させるために求められる内容の検討 | 事前 | 対象地委の選択理由などの記述 (4h) |
| | | 事後 | ソーシャル・ビジネスを提案する候補地域についての発表ペーパーの準備 (4h) |
| 第 7 週 | (第 12 講) 対象地域におけるソーシャル・ビジネスの検討スキーム、持続可能性等についての検討 | 事前 | 対象地域の特徴とソーシャルビジネスについての検討 (4h) |

| | | | |
|---|---|------|--------------------------------|
| | (第13講) 上記について、各自発表し、他の履修者や教員を含めたディスカッションによって、内容を深める | 事後 | 発表資料をコメントペーパーとして提出 (4h) |
| 第8週 | (第14講) 対象地域の課題解決策に向けたソーシャル・ビジネス構想の発表 (各自発表) | 事前 | 最終発表資料の準備 (4h) |
| | (第15講) ディスカッションと取りまとめ | 事後 | 最終成果の記述 (10h) (PPTにて、前日0時まで提出) |
| 授業の進め方と方法 | | | |
| <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、原則、教員が用意した教材による講義と、各自が自身の提案を実現したいと思う地方自治体を選択し、そこを調査研究フィールドとして進める。ソーシャル・ビジネスについては、まだ日本においての国などからの支援も少なく国際的にも遅れをとっている。教員、履修者を含めたディスカッションを行うことで、既存の事例や自身の経験だけに頼らずに独自性や先進性のある新たなソーシャル・ビジネスの構想をできる限り授業時間内で検討できるよう配慮する。</p> | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| <p>教科書 指定しない</p> <p>参考書 9割の社会問題はビジネスで解決できる 田口一成 2021 PHP 研究所 社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門 駒崎弘樹 2015 PHP 新書 ソーシャル・ビジネス革命—ムハマド・ユヌス 2010 早川書房 社会起業家になりたいと思ったら読む本 デービッド・ボーンステイン 2012 ダイヤモンド社</p> | | | |
| 評価方法 | | | |
| <p>評価は、各回のコメントペーパー40%、最終レポート60%で最終評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コメントペーパーは三段階評価とし、各回の点数の合計を講義回数で割り、個人のコメントペーパー点とする。やむをえず欠席した場合には、事前連絡がある場合のみ、講義後、講義資料をみてコメントペーパーを提出すれば、上記点数に加え、出席扱いとする。 ● 最終レポートは、上記のように前日0時までの提出を条件とし、遅れたものは評価対象外とする。また、最終日の口頭発表までを最終成果として評価する。 | | | |
| その他の重要事項 | | | |
| <p>授業以外の時間のオフィスアワーの予約は、TEAMSにより実施。各回、1時間以内で実施、グループディスカッションも可とする、但し、機会均等の観点から、回数は、一人当たり、4回までとする。</p> <p>授業実施方法は、ハイフレックスとする。</p> | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | - | - | ○ |

| | | | | | |
|-------|-------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | 社会政策論 | | | 科目コード | SDPC2309L |
| 担当教員 | 大谷 晃 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 2 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 木 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が社会政策の射程や歴史的背景、さらには現状と課題について理解するとともに、日本社会をはじめ特定のコンテキストにおける社会政策のグランドデザインを提言できるようになることにある。本授業では福祉国家の形成過程に関する基本的な知識を身につけるほか、年金・医療・介護・雇用・生活困窮者支援・育児支援といったテーマにおける具体的な制度の動向について概観しつつ、それぞれの政策分野に横串を刺し、社会政策を総体的に機能させるためにどのような施策が求められるか検討していく。

到達目標

- ① 履修者が、日本の社会政策の歴史的経緯と特徴について適切に説明できるようになること。
- ② 履修者が、社会政策に関する複数のテーマの現状と課題について広く理解し、説明できるようになること。
- ③ 履修者が、社会政策について領域横断的な理論的知識を身に付け、特定の社会における社会政策のあるべき姿を構想し、説明できるようになること。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 |
|--|---|
| 第 1 週 (第 1 講) 社会政策をとらえるための視座と方法 ——イントロダクション | 事前 シラバスを読み課題や評価方法等についての疑問点をまとめる (1h) |
| | 事後 コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、予習・復習スケジュールの割当検討 (1h) |
| 第 2 週 (第 2・3 講) 日本の社会政策の歴史 ——日本の雇用システム、日本の社会保障システム | 事前 フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | 事後 コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h) |
| 第 3 週 (第 4・5 講) 福祉社会学と経済理論 ——資源の再分配、福祉多元主義、包摂と排除、厚生経済学、格差指標 | 事前 フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | 事後 コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h) |
| 第 4 週 (第 6・7 講) 労働と社会政策 ——非正規雇用、女性の労働問題、労働規制 障害者雇用、失業 | 事前 フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | 事後 コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h) |
| 第 5 週 (第 8・9 講) 貧困と社会政策 ——絶対的貧困と相対的貧困、ロウントリーによる 貧困調査、相対的剥奪 | 事前 フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | 事後 コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表のテーマ検討 (4h) |
| 第 6 週 (第 10・11 講) 住宅と社会政策 ——住宅・居住保障、持ち家促進政策、 低所得者向け住宅政策、ホームレス | 事前 フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | 事後 コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h)、課題発表の構成検討 (4h) |
| 第 7 週 (第 12・13 講) 育児・介護・医療と社会政策 ——ワーク・ライフ・バランス、待機児童、 公的医療保険、介護保険、公的年金 | 事前 フィードバックコメントの確認 (0.5h)、授業タイトル・キーワードの予習 (2h) |
| | 事後 コメントペーパー記入 (0.5h)、授業内容の復習 (2h) |
| 第 8 週 (第 14・15 講) 社会政策の現状と課題を考える ——課題発表と討論 | 事前 フィードバックコメントの確認 (0.5h)、課題発表準備 (12h) |
| | 事後 コメントペーパー (発表へのリアクション含む) 記入 (3h)、授業内容の復習 (2h) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は担当教員による社会政策学・福祉社会学の理論や具体的な社会政策にかんする講義に加え、履修者によるディスカッションを取り入れる形で進める。本授業は、第2週以降、2講連続で実施する。最終回では履修者による社会政策についてのプレゼンテーションを行う。

第2週から第7週の授業は概ね、前回のふりかえり（コメントペーパーの紹介）、授業のねらいの確認、講義、ディスカッションで構成される。講義については、担当教員が用意するスライド資料に基づいて進行し、随時履修者からも質問を受け付ける。ディスカッションは、各回の授業テーマに関わる論題を教員から提示し、グループワークによって検討し全体発表をする方法か、各自がコメントペーパーに記入したものを教員が次週に紹介する方法をとる。毎週の授業終了時には、授業内容についての質問・感想・意見、ディスカッションへの貢献を記すコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにはフィードバックを行い、次週の授業冒頭のふりかえりの際にいくつかを紹介する。

第8週では、各履修者の関心に近いテーマにおいて特定の対象（国家・自治体等）を設定し、社会政策のあるべき姿について発表する。

教科書・参考書

【教科書】 指定しない

【参考書】 以下の文献を参照。また、それ以外にも初回および毎回の授業で参考書・参考資料を提示する。

駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂（2015）『社会政策——福祉と労働の経済学』、有斐閣アルマ。

久本憲夫（2015）『日本の社会政策 [改訂版]』、ナカニシヤ出版。

武川正吾（2023）『[新版] 福祉社会——包摂の社会政策』、有斐閣アルマ。

評価方法

| | |
|--------------|-----|
| コメントペーパーの内容 | 30% |
| ディスカッションへの貢献 | 30% |
| 第8週の課題発表の内容 | 40% |

その他の重要事項

担当教員のオフィスアワーおよび授業時間外での相談方法については、第1週の授業で説明する。

*担当教員の連絡先：大谷晃（akira.otani@sentankyo.ac.jp）

| | | | |
|--------------------|------|------|------|
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | - | ○ | - |

| | | | | | |
|-------|-----------------|------|-----------|-------|-----------|
| 授業名称 | ソーシャル・コミュニケーション | | | 科目コード | SDPC2310L |
| 担当教員 | 坂本 文武 | 実施方法 | 一部ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 2 年次 | 開講学期 | 前期 | 曜日 | 火 A |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 1 回 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、広義における非営利組織（NPO）の情報戦略を理解することで、組織とステークホルダーとの「対話と協働」のコミュニケーションを設計できるようになることにある。非営利組織は、社会課題解決もしくは社会変革のために、個人や組織から財や労役を無償で借り受け社会運動に発展させる経営戦略をとることが多い。社会課題を中心に据え周囲から支援行動を引き出すコミュニケーションのあり方は、営利組織がサステナビリティ経営を、行政がローカル SDGs を推進する際、もしくは、営利組織の「ファンづくり」「ファンの組織化」において参考になることが多い。本授業を通して、「ステークホルダーと共感の関係をどう築くのか」、「組織活動への愛着をどう増長するのか」、「組織を支援する人をどうコミュニティ化するのか」といった問いに答えていく。基盤として非営利組織の組織特性および社会戦略を理解する知識を習得すること、応用として企業コミュニケーションに適用できるポイントを探ることを射程に講義および議論を展開する。

到達目標

- ① 履修者が非営利組織の組織特性とそれが立脚する事業環境を理解する。
- ② 非営利組織が立案、実行するソーシャル・コミュニケーション戦略の本質を履修者が説明できる。
- ③ 履修者がソーシャル・コミュニケーションの要素を自組織の広報戦略に組み込める。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|-------|--|--------|--|
| 第 1 週 | (第 1 講) NPO への基礎理解—日本における市民社会と非営利組織の社会的役割の理解 | 事前 | シラバスの精読と授業での質問事項の検討 (0.5h) |
| | | 事後 | ディスカッションの復習 (1h) |
| 第 2 週 | (第 2 講) NPO の組織類型と経営原則—営利企業との比較を通して組織の類型と経営の原則を理解する (第 3 講) NPO の組織構造—営利企業との比較を通してガバナンスの特性を理解する | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) |
| | | 事後 | ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 3 週 | (第 4 講) NPO の財務戦略—NPO の資金調達および財務管理の基本を理解する (第 5 講) NPO の社会戦略—社会を変える NPO のコミュニケーション戦略を考察する | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) |
| | | 事後 | ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 4 週 | (第 6・7 講) 実践事例研究—NPO の役員もしくは職員をゲスト講師として招聘し実践事例を分析する (予定) | 事前 | 授業資料の確認 (1.5h) ゲスト講師の所属団体の理解 (1.5h) |
| | | 事後 | ディスカッションの復習 (2h) グループで事例研究と発表準備 (20h) |
| 第 5 週 | (第 8 講) 事例研究①—履修者による事例報告とそれに基づくソーシャル・コミュニケーションの要点に関する討議 (第 9 講) 事例研究②—前講の続き | 事前 | 発表資料の確認 (2h) |
| | | 事後 | ディスカッションの復習 (2h) |
| 第 6 週 | (第 10・11 講) 実践事例研究—ソーシャル・コミュニケーションを外部から支援する専門家をゲスト講師として招聘し、社会を動かすコミュニケーションの要件を議論する (予定) | 事前 | 発表資料の確認 (2h) |
| | | 事後 | ディスカッションの復習 (2h) |

| | | | | |
|--|--|------|---|--|
| 第7週 | (第12・13講) 振り返り討議—演習目的に設定された社会課題を解決するためのソーシャル・コミュニケーション戦略を講義時間内にて検討し発表、相互批判する | 事前 | 演習テーマの事前学習 (2h) | |
| | | 事後 | ディスカッションの復習 (2h) | |
| 第8週 | (第14・15講) 総括討議—社会を変えるソーシャル・コミュニケーションの本質と企業や行政への応用 | 事前 | 過去講義資料とノートの確認 (3h) | |
| | | 事後 | ディスカッションの復習 (1.5h) 最終レポート課題の作成 (10h) | |
| 授業の進め方と方法 | | | | |
| 上記目的・到達目標を達成するため、本授業は基礎知識の習得を狙いとする講義と、派生する問いに関するディスカッションを中心に進行する。なお、重点的に取り扱う具体的なテーマについては、履修者の関心を踏まえて調整していく。 | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | |
| 教科書は指定しない。 参考書：SSIR JAPAN (2021) 『これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。——スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクション10』, SSIR Japan. | | | | |
| 評価方法 | | | | |
| ① 講義中もしくは Teams でのディスカッションへの貢献 ② 最終課題の提出 (文字数は 3,000 文字程度、提出期限は第 8 週後 2～3 週間程度) 以上、① (40%)、② (60%) の総合評価により判定する。 | | | | |
| その他の重要事項 | | | | |
| 担当教員のオフィスアワーおよび予約の方法については、初回の授業で説明する。 オンライン形式にて開講するが、数回事前に告知をしたうえでハイフレックスにて開講する計画である。 | | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ | |
| | - | ○ | ○ | |

| | | | | | |
|--|---|------|--|--------|-----------|
| 授業名称 | 地域イノベーション論 | | | 科目コード | SDPC2311L |
| 担当教員 | 池邊 このみ | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 2 単位 |
| 配当年次 | 2 年次 | 開講学期 | 後期 | 曜日 | 水 B |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 講義 | 授業区分 | 選択 |
| 授業の目的 | | | | | |
| <p>本授業は、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策を基礎知識とし、現代社会における地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察することを目的とする。地域イノベーションは、国が推進している政策であり、文部科学省他 4 省庁が、地域イノベーション創出に向けた優れた構想を持つ地域を「地域イノベーション戦略推進地域」として位置づけられている。ここでは、それらの事例を振り返りつつ、今後求められる地域イノベーション像を明確にする。</p> | | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| <p>⑦ 履修者が地域イノベーションについて、国や地域で行ってきた政策を理解する。</p> <p>⑧ 履修者が、地域課題を自ら発見し、着想し、創造性を発揮するイノベーション人材となるべく、イノベーションを起こす素地づくりを目指す。</p> <p>⑨ 地域の言葉や実態に真摯に受け止める力、地域の方々と対話する力、そのような行為を通じて、課題発見やイノベーション、アイデアプランニングに取り組む。</p> <p>⑩ 履修者が地域の資源を活用して、新たなイノベティブな提案を創出できることを目指す。</p> | | | | | |
| 授業計画 | | | | 授業外の学習 | |
| 第 1 週 | (第 1 講) 国で推進されてきた地域イノベーション戦略の概要 | 事前 | キーワードの検索 (2h) | | |
| | | 事後 | コメントペーパー記述 (2h) | | |
| 第 2 週 | (第 2 講) 大学で推進されてきた地域イノベーション (第 3 講) 地方都市を中心とした地域発イノベーションの取組 | 事前 | 事例検索 (2h) | | |
| | | 事後 | コメントペーパーの記述 (2h) | | |
| 第 3 週 | (第 4 講) 企業とともに推進されてきた地域イノベーションの取組 (第 5 講) 地方大学から提案された「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」 | 事前 | 事例検索 (2h) | | |
| | | 事後 | コメントペーパーの記述 (4h) | | |
| 第 4 週 | (第 6 講) 海外の地域イノベーションについて (第 7 講) イノベーションをめぐる状況とその創出 | 事前 | 地域イノベーション像の検討 (4h) | | |
| | | 事後 | コメントペーパーの記載 (4h) | | |
| 第 5 週 | (第 8 講) 改めて地域に必要とされるイノベーションとは何か (グループディスカッション、発表) (第 9 講) 自分の考える今、必要とされる地域イノベーションの構造、要素、スキーム等 (各自作成、発表) | 事前 | 発表資料の準備 (4h) | | |
| | | 事後 | 地域イノベーション像の記載 (4h) | | |
| 第 6 週 | (第 10 講) 対象地域の選定、選択理由や地域特性、課題などをまとめる (選定後、各自選択理由を含め発表) (第 11 講) 求められる人材やその人材育成、立ち位置、地方自治体や企業との関係性を考える | 事前 | 対象地域の選定についての記載 (4h) | | |
| | | 事後 | 地域イノベーションを提案する候補地域についての発表ペーパー提出 (PPT の準備) (4h) | | |
| 第 7 週 | (第 12 講) 対象地域における地域イノベーションの検討 | 事前 | 地域イノベーション像の検討 (4h) | | |

| | | | |
|--|---|------|----------------------------------|
| | 人材や、成果についての検討（発表） （第 13 講）地域イノベーションとエコシステム | 事後 | 地域イノベーションの検討（発表資料の準備）（4h） |
| 第 8 週 | （第 14 講）対象地域の課題解決策、目標像、成果指標、を踏まえた地域イノベーション提案の発表（各自発表） （第 15 講）ディスカッションと取りまとめ | 事前 | 最終成果の準備（4h） |
| | | 事後 | 最終成果の作成（PPT にて、前日 0 時までに提出）（10h） |
| 授業の進め方と方法 | | | |
| <p>上記目的・到達目標を達成するため、本授業は、原則、教員が用意した教材による講義と、各自が興味のある地方自治体を選択し、そこを調査研究フィールドとして進める。途中、グループディスカッションを初期の対象地域の特徴と課題について、とりまとめた段階で 1 回、最終提案を取りまとめる課程で 1 回実施する。</p> <p>上記では、グループや各自での発表を授業内で想定しているが、人数に応じて調整を行う。</p> | | | |
| 教科書・参考書 | | | |
| 教科書 指定しない | | | |
| 参考書 信州に学ぶ地域イノベーション 長野県立グローバルマネジメント学部 2023 中央経済社 実践から学ぶ地域活性化 梅村仁他編 2021 同友館 | | | |
| 評価方法 | | | |
| <p>評価は、各回のコメントペーパー40%、最終レポート 60%で最終評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コメントペーパーは三段階評価とし、各回の点数の合計を講義回数で割り、個人のコメントペーパー点とする。やむをえず欠席した場合には、事前連絡がある場合のみ、講義後、講義資料をみてコメントペーパーを提出すれば、上記点数に加え、出席扱いとする。 ● 最終レポートは、上記のように前日 0 時までの提出を条件とし、遅れたものは評価対象外とする。また、最終日の口頭発表までを最終成果として評価する。 | | | |
| その他の重要事項 | | | |
| <p>授業以外の時間のオフィスアワーの予約は、TEAMS により実施。各回、1 時間以内で実施、グループディスカッションも可とする、但し、機会均等の観点から、回数は、一人当たり、4 回までとする。</p> <p>授業実施方法は、ハイフレックとする。</p> | | | |
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | - | - | ○ |

| | | | | | |
|-------|--------------|------|---------|-------|-----------|
| 授業名称 | グランドデザイン構想実践 | | | 科目コード | SDPD1411S |
| 担当教員 | 下平 拓哉 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 6単位 |
| 配当年次 | 1年次 | 開講学期 | 通年+集中 | 曜日 | 土A(3・4限) |
| 年間開講数 | 1回 | 授業種別 | 演習 | 授業区分 | 選択必修 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が社会や組織のグランドデザインを構想し実装するための一連の能力を実践的に身につけることにある。本授業では、公共機関ないし民間企業との協力関係のもと、当該機関が抱える実際の政策課題や経営課題への解決策を立案するため、1年間のグループワークを行う。履修者は前期で教員の指導のもとヒアリングや調査を実施し課題の構造化を行い、後期では社会学をはじめとする学術理論や社会調査により得られたデータに基づく解決策の検討に取り組み、最終成果としての「構想計画書」を作成し、年度末に開催される「社会構想プロジェクト報告会」での報告を行う。

到達目標

- ① 履修者が「構想計画書」を作成し完成させ報告できる。また口頭試問に耐えうる知見を得ることができる。
- ② 履修者が社会や組織のグランドデザインを描くために必要な知識を体系的に修得し、自ら研究を進めることができる。
- ③ 履修者がそのグランドデザインを実現するための具体的な方法論を実践的に身につけ、研究を進めることができる。

授業計画

授業外の学習

| 授業計画 | 授業外の学習 | |
|------|---|--|
| 第1週 | 【前期】(第1講) 前期オリエンテーション 現在の問題関心や各履修者の研究構想を確認する。また、研究進捗状況の共有や1年間のスケジュールを確認する。 | 事前 シラバスおよび授業資料の確認 (1h) |
| | | 事後 履修者同士の相互レビュー (1h) |
| 第2週 | (第2講) 前期課題設定 (第3講) 連携先プレゼンテーション | 事前 プロGRESSレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第3週 | (第4講) 講義1: グランドデザインとはなにか (第5講) 課題検討: グループワーク1 | 事前 プロGRESSレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第4週 | (第6講) 講義2: ソーシャルデザインとはなにか (第7講) 課題検討: グループワーク2 | 事前 プロGRESSレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第5週 | (第8講) 講義3: ビジネスデザインとはなにか (第9講) 課題検討: グループワーク3 | 事前 プロGRESSレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第6週 | (第10講) 講義4: ヒューマンデザインとはなにか (第11講) 課題検討: グループワーク4 | 事前 プロGRESSレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第7週 | (第12講) ~ (第13講) グループ発表 | 事前 プロGRESSレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 履修者同士の相互レビュー (1h) 学期末レポート執筆 (6h) |
| 第8週 | (第14講) ~ (第15講) 夏季課題設定 | 事前 プロGRESSレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第9週 | 【後期】(第16講) 後期オリエンテーション | 事前 シラバスおよび授業資料の確認 (1h) |

| | | | |
|--------------------|---|----|--|
| | 現在の問題関心や各履修者の研究構想を確認する。また、研究進捗状況の共有や半年間のスケジュールを確認する。 | 事後 | 履修者同士の相互レビュー (1h) |
| 第 10 週 | (第 17 講) 後期課題設定 (第 18 講) 連携先プレゼンテーション | 事前 | プログレスレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 | 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第 11 週 | (第 19 講) 講義 1 : 未来のまちづくり (第 20 講) 課題検討 : グループワーク 1 | 事前 | プログレスレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 | 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第 12 週 | (第 21 講) 講義 2 : 未来のひとづくり (第 22 講) 課題検討 : グループワーク 2 | 事前 | プログレスレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 | 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第 13 週 | (第 23 講) 講義 3 : 未来のしごとづくり (第 24 講) 課題検討 : グループワーク 3 | 事前 | プログレスレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 | 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第 14 週 | (第 25 講) 講義 4 : 未来のパートナーシップづくり (第 26 講) 課題検討 : グループワーク 4 | 事前 | プログレスレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 | 履修者同士の相互レビュー (1h) リサーチワーク (4h) |
| 第 15 週 | (第 27 講) ~ (第 28 講) グループ発表 | 事前 | プログレスレポートの執筆 (3h) |
| | | 事後 | 履修者同士の相互レビュー (1h) 構想計画書提出資料執筆 (6h) |
| 第 16 週 | (第 29 講) ~ (第 30 講) 1 年間の学びのまとめと振り返り | 事前 | 資料確認・ディスカッション準備 (18h) |
| | | 事後 | 履修者同士の相互レビュー (1h) 構想計画書提出資料修正 (17h) |
| 課外 授業 【2 単位】 | フィールドリサーチ【フィールド地域への現地訪問】 ① フィールド地域訪問【1 日 : 4 講分】⇨第 3~6 週頃 ② フィールド地域訪問【1 泊 2 日 : 7 講分】⇨第 7~9 週頃 ③ 地方自治体等における構想計画発表 【1 日 : 4 講分】⇨第 12 週以降 | 事前 | リサーチ内容【観察・インタビュー・体験の場所・内容等】の検討 (6h) 発表用の構想計画作成 (6h) |
| | | 事後 | リサーチ結果の整理 (10h) リサーチで得たインサイトやエビデンスによる構想計画の作成や修正 (10h) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業はグループワーク研究における履修者の研究進捗状況の管理と助言指導が主となる。「構想計画書」は、履修者の自律的な研究を通じ、グループワーク研究として執筆するものである。授業ごとにプログレスレポート (A4 サイズ 1~2 枚) を作成することを求める。

教科書・参考書

教科書は指定しない。以下、参考図書を列記する。

Christian Bason (2014) *Design for Policy*, Routledge.

Christian Bason (2017) *Leading Public Design: Discovering Human-Centred Governance*, Policy Press.

Melissa K. Nelson and Dan Shilling ed. (2018) *Traditional Ecological Knowledge*, Cambridge University Press.

Oliver P. Richmond (2022) *The Grand Design: The Evolution of the International Peace Architecture*, Oxford University Press.

Paddy McMahon (2015) *The Grand Design- I: Reflections of a soul/oversoul*, CreateSpace Independent Publishing Platform.

ケネス・J・ガーゲン（2004）『社会構成主義の理論と実践』、ナカニシヤ出版。
 シンシア・スミス編（2015）『世界を変えるデザイン2 スラムに学ぶ生活空間のイノベーション』、英治出版。
 スティーヴン・ホーキング（2011）『ホーキング、宇宙と人間を語る』、エクスナレッジ。
 宇沢弘文（2000）『社会的共通資本』、岩波書店。
 中道寿一（2014）『政策構想の政治学』、福村出版。
 村上陽一郎他（2009）『平和と和解のグランドデザイン-東アジアにおける共生を求めて』、風行社。

評価方法

「構想計画書」にあわせた研究、執筆について評価する。

《前期の中間評価》

1. 自分自身の発表内容（50%）
2. プロGRESSレポート（30%）
3. 他者との討議（20%）

《後期・総合評価》

1. 「構想計画書」の完成度（70%）
2. 中間評価と同様の基準（30%）

その他の重要事項

オフィスアワーの予約方法：Microsoft Teams チャット機能で連絡（相談内容については問わない）

授業実施方法：ハイフレックス

| | DP ① | DP ② | DP ③ |
|--------------------|------|------|------|
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | ○ | ○ | ○ |

| | | | | | |
|-------|----------|------|---------|-------|-------------|
| 授業名称 | 社会起業構想実践 | | | 科目コード | SDPD1412S |
| 担当教員 | 河村 昌美 | 実施方法 | ハイフレックス | 単位数 | 6 単位 |
| 配当年次 | 1 年次 | 開講学期 | 通年+集中 | 曜日 | 土 B (3・4 限) |
| 年間開講数 | 1 回 | 授業種別 | 演習 | 授業区分 | 選択 |

授業の目的

本授業の目的は、履修者が社会起業に取り組むために求められる一連の能力を実践的に身につけることにある。そのため本授業では、まず、様々な課題を抱える特定の地域（千葉県内の町村を予定）をフィールドとし、当該地域の地方自治体及び地元企業の協力を得ながら、社会起業の起点・目的となるリアルな社会・地域課題の発見とその解決に資する事業の起業構想を実践する。あわせて、担当教員による事業構想の基礎知識の講義及び全国各地で活躍する複数の社会企業家のゲスト講義により、社会起業に必要な実践的知識やノウハウを専門家及び実践者の経験から直接学び、対話する機会を提供する。

履修者は、前期で教員の指導のもとでの学習やデスク・フィールドリサーチを通じて課題発見及び社会起業の実践知識の取得を目指し、後期では前期で得た知見やデータ、学術理論などを踏まえつつ、さらなるリサーチや学習、検討を進めながら、経済活動により具体的な課題解決を図る新事業の起業構想に取り組む。

最終成果としては、具体的な社会・地域課題解決事業についての「構想計画書」を作成し、年度末に開催される「社会構想プロジェクト報告会」での報告を行う。

到達目標

- ① 履修者が、社会起業家・ソーシャルイノベーターとして必須の視点として、短期的な課題解決のみならず、長期的な視点からの社会善の追求ができるようになる。
- ② 履修者が、社会起業の起点となる社会・地域課題（社会の理想と現実の乖離）を現場から得て分析するための、理論や方法を体得し実践できるようになる。
- ③ 履修者が、理論的・実践的視座から社会動向と社会課題の本質を見定めたくえで、経済的活動を通じて当該課題の解決を図るための事業構想の思想と技術を体得し、構想計画書を完成・報告できるようにする。

授業計画

| 授業計画 | | 授業外の学習 | |
|-------|--|--------|--|
| 第 1 週 | (第 1 講) 前期オリエンテーション 各履修者の問題意識や構想希望内容を確認・共有 前期の講義やリサーチの内容や進め方の確認・共有 | 事前 | シラバスの確認 (0.5h) |
| | | 事後 | 授業内容の復習 (0.5h) プログレスレポート作成・提出 (1.5h) 構想のリサーチ・検討・修正 (0.5h) |
| 第 2 週 | (第 2 講) 社会起業のための事業構想の基礎 I (第 3 講) 具体的な社会・地域課題解決事例をケースとしたグループワーク I | 事前 | 授業資料の確認 (1h) ワーク資料の確認・準備 (1h) |
| | | 事後 | 資料・ワーク内容復習 (1h) プログレスレポート作成・提出 (1.5h) 構想のリサーチ・検討・修正 (1h) |
| 第 3 週 | (第 4 講) 社会起業のための事業構想の基礎 II (第 5 講) 具体的な社会・地域課題解決事例をケースとしたグループワーク II | 事前 | 授業資料の確認 (1h) ワーク資料の確認・準備 (1h) |
| | | 事後 | 資料・ワーク内容復習 (1h) プログレスレポート作成・提出 (1.5h) 構想のリサーチ・検討・修正 (1h) |
| 第 4 週 | (第 6 講) 社会的企業の実践者講義 I (第 7 講) 実践者との質疑・ディスカッション I | 事前 | 授業資料の確認 (1h) 質問・ディスカッションの準備 (1h) |
| | | 事後 | 資料・ディスカッションの復習 (1h) プログレスレポート作成・提出 (1.5h) 構想のリサーチ・検討・修正 (1h) |
| 第 5 週 | (第 8 講) 社会的企業の実践者講義 II (第 9 講) 実践者との質疑・ディスカッション II | 事前 | 授業資料の確認 (1h) 質問・ディスカッションの準備 (1h) |
| | | 事後 | 資料・ディスカッションの復習 (1h) プログレスレポート作成・提出 (1.5h) 構想のリサーチ・検討・修正 (1h) |
| 第 6 週 | (第 10 講) 各履修者が社会起業構想で取り組む対象課題及び解決策の仮説等の発表・ディスカッション | 事前 | 構想(仮題・解決仮説)発表準備 (3h) |
| | | 事後 | プログレスレポート作成・提出 (1.5h) 各自の発表を踏まえた、自己の構想の |

| | | | |
|-------------------|---|----|--|
| | | | リサーチ・検討・修正 (3h) |
| 第7週 | (第12講)～(第13講) グループ発表・講評 | 事前 | 構想計画書の発表準備 (3h) |
| | | 事後 | 発表時のフィードバックを受けての内容・資料等の修正 (4h) |
| 第8週 | (第14講)～(第15講) 夏季課題設定 | 事前 | 構想計画書の発表準備 (4h) |
| | | 事後 | リサーチワーク (3h) |
| 第9週 | (第16講) 後期オリエンテーション 各履修者の取り組む課題と構想の方向性確認・共有 後期の講義やリサーチの内容や進め方の確認・共有 | 事前 | シラバスの確認 (0.5h) |
| | | 事後 | 授業内容の復習 (0.5h) プロGRESSレポート作成・提出 (1.5h) 構想のリサーチ・検討・修正 (1h) |
| 第10週 | (第17講) 社会起業のための事業構想の基礎 III (第18講) 社会起業のための事業構想の基礎 IV | 事前 | 授業資料の確認 (1h) ワーク資料の確認・準備 (1h) |
| | | 事後 | 資料・ワーク内容復習 (1h) プロGRESSレポート作成・提出 (1.5h) 構想のリサーチ・検討・修正 (1h) |
| 第11週 | (第19講) 社会的企業の実践者講義III (第20講) 実践者との質疑・ディスカッションIII | 事前 | 授業資料の確認 (1h) 質問・ディスカッションの準備 (1h) |
| | | 事後 | 資料・ディスカッションの復習 (1h) プロGRESSレポート作成・提出 (1.5h) 構想のリサーチ・検討・修正 (1h) |
| 第12週 | (第21講) 各履修者の構想の発表とディスカッション I (第22講) 各履修者の構想の発表とディスカッション II | 事前 | 構想の発表の準備 (3h) |
| | | 事後 | プロGRESSレポート作成・提出 (1.5h) 各自の発表を踏まえた、自己の構想の リサーチ・検討・修正 (2h) |
| 第13週 | (第23講) 各履修者の構想の発表とディスカッションIII (第24講) 各履修者の構想の発表とディスカッションIV | 事前 | 構想の発表の準備 (3h) |
| | | 事後 | プロGRESSレポート作成・提出 (1.5h) 各自の発表を踏まえた、自己の構想の リサーチ・検討・修正 (2h) |
| 第14週 | (第25講)～(第26講) 各履修者の構想計画書の発表 | 事前 | 構想計画書の発表準備 (3.5h) |
| | | 事後 | プロGRESSレポート作成・提出 (1.5h) 社会構想プロジェクト発表会に向けた 構想計画の準備 (3h) |
| 第15週 | (第27講)～(第28講) グループ発表 | 事前 | 構想計画書の発表準備 (3h) |
| | | 事後 | 構想計画書提出資料執筆 (10h) |
| 第16週 | (第29講)～(第30講) 1年間の学びのまとめと振り返り | 事前 | 資料確認・ディスカッション準備 (10h) |
| | | 事後 | 構想計画書提出資料修正 (15h) |
| 課外 授業 【2単位】 | フィールドリサーチ【フィールド地域への現地訪問】 ① フィールド地域訪問【1日：4講分】⇨第3～6週頃 ② フィールド地域訪問【1泊2日：7講分】⇨第7～9週頃 ③ 地方自治体等における構想計画発表 【1日：4講分】⇨第12週以降 | 事前 | リサーチ内容【観察・インタビュー・ 体験の場所・内容等】の検討 (15h) 発表用の構想計画作成 (15h) |
| | | 事後 | リサーチ結果の整理 (15h) リサーチで得たインサイトや エビデンスによる構想計画の 作成や修正 (15h) |

授業の進め方と方法

上記目的・到達目標を達成するため、本授業は講義及びグループワーク、ディスカッション、デスクリサーチ・フィールドリサーチを通じて行っていく。

また社会企業家を実践者としてゲスト講師に招聘する。

上記目的・到達目標を達成するため、本授業はグループワーク研究における履修者の研究進捗状況の管理と助言指導が主となる。「構想計画書」は、履修者の自律的な研究を通じ、グループワーク研究として執筆するものである。授業ごとにプロGRESSレポート (A4サイズ1～2枚) を作成することを求める。

教科書・参考書

教科書は指定しない。以下、参考図書を列記する（この他、授業において適宜指示する資料を参考書とする）

- ① アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニユール、グレッグ・バーナーダ、アラン・スミス（2015）『バリュー・プロポジション・デザイン 顧客が欲しがらる製品やサービスを創る』,翔泳社
- ② アレックス オスターワルダー、イヴ ピニユール（2012）『ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書』,翔泳社
- ③ 吉田満梨、中村龍太（2023）『エフェクチュエーション 優れた起業家が自薦する「5つの原則」』,ダイヤモンド社
- ④ 中川直洋（2023）『地方起業の教科書』,あさ出版
- ⑤ 堀新一郎、琴平将広、井上大智（2020）『STARTUP 優れた起業家は何を考え、どう行動したか』,ニュースピックス

評価方法

「構想計画書」にあわせた研究、執筆について評価する。

《前期の中間評価》

- 1. 自分自身の発表内容（50%）
- 2. プログレスレポート（30%）
- 3. 他者との討議（20%）

《後期・総合評価》

- 1. 「構想計画書」の完成度（70%）
- 2. 中間評価と同様の基準（30%）

その他の重要事項

オフィスアワーの予約については、事前に Teams を通じて担当教員と予定を調整すること。
 ゲスト講師の都合により、講義の順番は変更する可能性がある。

| | | | |
|--------------------|------|------|------|
| 本科目と対応するディプロマ・ポリシー | DP ① | DP ② | DP ③ |
| | ○ | ○ | ○ |

自由科目

社会構想大学院大学の専門職学位課程に所属する学生は、他研究科で開講される授業のうち、必修科目・選択必修科目を除く授業を「自由科目」として履修できます。自由科目の単位は、修了単位数に算入することはできませんが、成績表に記載されます。単年度に履修できる単位数には、自由科目も含まれます。なお、履修希望者が多数となった場合には、開講元課程の院生による履修を優先します。

オフィスアワー

本学常勤教員のオフィスアワーは下表の通りです。当該時間帯は対面ないし Teams でのご相談に対応するため、各教員が研究室で待機しています。履修や学習方法、研究に関するご相談など、自由にご活用ください。各授業担当教員もメールや Teams 等でオフィスアワーの設定が可能ですので、各教員へ個別にお問い合わせください。Teams のチャットを用いて教員に連絡する場合は、アプリ上部の検索ウインドウにメールアドレス（次ページ以降参照）の@より前の文字列を記入してください。

| 教員名 | 所属 | 前期 | 後期 |
|-------|----|------------------------------------|------------------------------------|
| 橋本 純次 | CD | 随時（ガイダンス資料参照） | 随時（ガイダンス資料参照） |
| 中川 哲 | CD | 木 A 17:00-18:00 | 水 A 17:00-18:00 |
| 徳宮 俊貴 | CD | 火 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00 | 火 A 18:00-20:00 |
| 大谷 晃 | PE | 火 A 18:00-20:00 | 火 A 18:00-20:00 |
| 齋藤 崇徳 | PE | 月 A 18:00-19:00 月 B 18:00-19:00 | 月 A 18:00-19:00 月 B 18:00-19:00 |
| 富井 久義 | SD | 水 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00 | 水 A 18:00-19:00 火 B 18:00-19:00 |

※「CD」は「コミュニケーションデザイン研究科」, 「PE」は「実務教育研究科」, 「SD」は社会構想研究科を指す

教員メールアドレス一覧（社会構想研究科）

| 職位 | 氏名 | メールアドレス（Teams アカウントも同様） |
|---------|--------|-------------------------------------|
| 学長・研究科長 | 吉國 浩二 | （事務局にお問い合わせください） |
| 教授 | 池邊 このみ | konomi.ikebe@socialdesign.ac.jp |
| 教授 | 北島 純 | j.kitajima@socialdesign.ac.jp |
| 教授 | 下平 拓哉 | t.shimodaira@mpd.ac.jp |
| 教授 | 河村 昌美 | m.kawamura@mpd.ac.jp |
| 教授 | 西田 淳一 | junichi.nishida@socialdesign.ac.jp |
| 准教授 | 富井 久義 | h.tommy@sentankyo.ac.jp |
| 兼担教員 | 坂本 文武 | f.sakamoto@socialdesign.ac.jp |
| 兼担教員 | 中川 哲 | satoshi.nakagawa@socialdesign.ac.jp |
| 兼担教員 | 橋本 純次 | j.hashimoto@socialdesign.ac.jp |
| 兼担教員 | 徳宮 俊貴 | toshiki.tokumiya@sentankyo.ac.jp |
| 兼担教員 | 大谷 晃 | akira.otani@sentankyo.ac.jp |

科目等履修生

科目等履修生として登録された方は、正規の院生と同様に社会構想大学院大学の施設・設備・LMS を利用することができます。ただし、学外の学割等を受けることはできません。

学則・その他規則は正規院生と同様に適用されます。授業時間帯・実施方法・録画データの配信については、P.2 以降をご確認ください。

(1) 科目等履修生番号・登録証

科目等履修生として登録されると、8桁の科目等履修生番号が付与されます。本学専門職学位課程修了生であっても、新たな科目等履修生番号が付与されますので、ご注意ください。複数年度において科目等履修生として在籍する者は、登録期間が連続している場合のみ、同一の科目等履修生番号となります。

発行される登録証は科目等履修生であることを証明するものであり、同時に、入館セキュリティカード、図書室利用証としての機能を兼ねています。紛失しないよう十分注意し常に携帯するとともに、本学教職員から要求があったときはこれを提示しなければなりません。**登録証の再交付（再発行）は、理由の如何を問わず、実費（5,500 円）を請求いたします。**

(2) Microsoft365 アカウント

科目等履修生には大学院の Microsoft365 アカウントを付与いたします。アカウントドメインは【@nd.socialdesign.ac.jp】です。事前にお送りする設定マニュアルに従って、授業開始までに Microsoft365 および Teams の設定を完了してください。Microsoft365 アカウントは登録学期末まで利用することが可能です。

なお、複数年度において科目等履修生として在籍する者は、登録期間が連続している場合のみ、同一のアカウントとなります。また、本学専門職学位課程修了生として科目等履修生へ申し込まれた方は、修了生アカウントを引き続き、科目等履修生として利用いただきます。

(3) 履修登録

科目等履修生として登録を許可された段階で、申し込み時の申請科目への履修が登録されます。そのため、追加の履修登録手続きは必要ありません。授業開始後一週間、オリエンテーションのチームに登録されますが、ご自身の申請した授業のみ視聴するようにしてください。オリエンテーションが終わりますと、新たに登録された授業のチームが割り当てられます。

(4) 成績評価

各学期の終了後、成績通知書の送付をもって修了となります。Microsoft365 アカウント停止後の成績証明書については、事務局へお問い合わせください。

なお、本学専門職学位課程修了生につきましては、正規院生としての成績証明書と、科目等履修生としての成績証明書は別に発行されます。

研究生

研究生として登録された学生は、正規学生と同等に社会構想大学院大学の施設・設備・LMS を利用する

ことができます。ただし、学外の学割等を受けることはできません。

研究指導については、指導担当教員に直接お問い合わせください。

(1) 研究生番号・登録証

研究生として登録されると、8桁の研究生番号が付与されます。本学専門職学位課程修了生であっても、新たな研究生番号が付与されますので、ご注意ください。

発行される登録証は研究生であることを証明するものであり、同時に、入館セキュリティカード、図書室利用証としての機能を兼ねています。紛失しないよう十分注意し常に携帯するとともに、本学教職員から要求があったときはこれを提示しなければなりません。**登録証の再交付（再発行）は、理由の如何を問わず、実費（5,500円）を請求いたします。**

(2) Microsoft365 アカウント

研究生は、専門職学位課程の修了生アカウントを引き続きご利用いただけます。

(3) 聴講

研究生は、指導教員が研究指導上必要と認めた場合に限り、専門職学位課程の科目を聴講することができます。指導教員からの指示のうえで聴講を希望する場合は、授業担当教員に直接連絡を取り、聴講の許可を得てください。聴講の可否については、授業担当教員から事務局へ連絡するよう、依頼してください。履修希望者が多数となった場合には、開講元課程の院生による履修を優先します。

なお、聴講によって単位を習得することはできません。

(4) 延長

研究生の在籍期間は1年以内ですが、研究生が研究の継続を希望する場合、在籍期間の延長が認められる場合があります。延長期間は1年以内とし、再度の延長が許可されることもあります。